

UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFOと宇宙哲学の専門誌

コンタクティー

朝霧高原の不思議な“月”

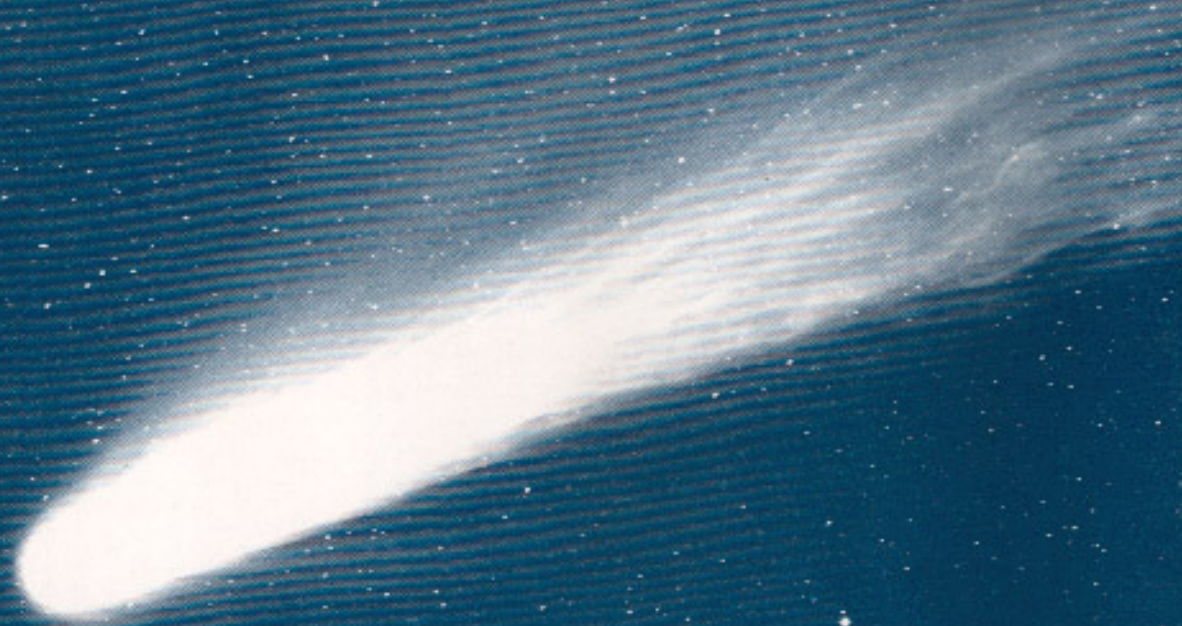
旭川にも月擬装UFO出現

現在と未来の宇宙開発計画

AUTUMN
1985

90

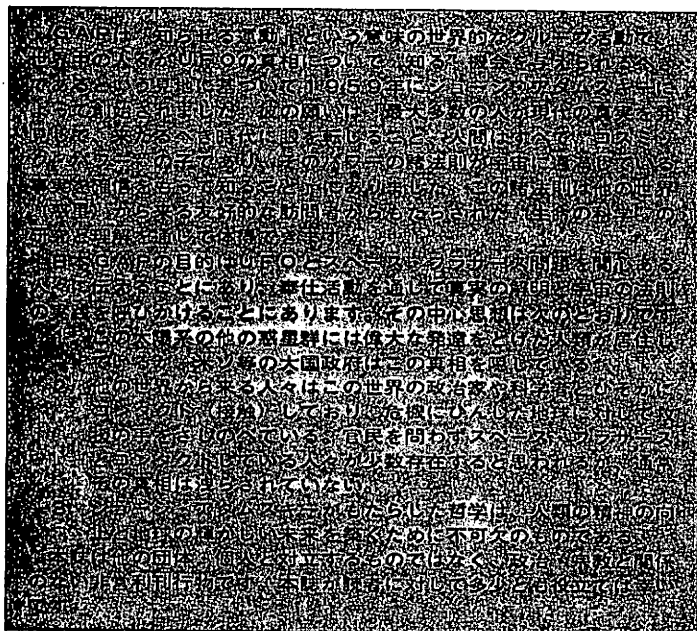
アダムスキー問題の真実性と
宇宙哲学実践法



| | |
|--|------------------|
| 〈巻頭言〉 テレパシー時代の到来 | 1 |
| 朝霧高原の不思議な“月” | 伊藤達夫 2 |
| 旭川にも月擬装UFO出現 | 石川晴道 6 |
| 尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船 | 8 |
| 人間の想念に应答する植物 | 小川 隆 12 |
| イエスと転生 | 星 香留菜 14 |
| 「ムーンゲート」第14章 <small>現在と未来の宇宙開発計画</small> (完) | ウィリアム・L・ブライアン 16 |
| アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法 | 久保田八郎 20 |
| 〈投稿欄〉 ユーコン広場 | 30 |
| 〈報告〉 各地支部大会 | 34 |
| 〈予告〉 60年度地方支部大会(3) | 36 |
| 〈予告〉 60年度日本GAP総会 | 37 |
| 〈予告〉 エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅 | 38 |
| 〈広告〉 アダムスキー全集/英文版Uコン | 39 |
| 全国月例研究会案内 | 40 |



GAPとは



裏表紙写真はウエスト彗星。
東京天文台木曾観測所撮影。

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
全記事・写真共他の印刷物への無断転載を禁じます。

本誌88号に掲載した「驚異の高松市円盤降下事件」は依然として反響を起こしつつある。賛否両論のうち、日本GAP会員は圧倒的に信憑性を認める側にあるが、会員中にも半信半疑と言う人がいるらしい。その理由は、あれほどの大きな円盤が地上数メートルの超低空まで降下したのに、他に目撃者がいないのは不自然だということにあるようだ。

もつともなことが、しかしあの事件についてはかなり深遠な意義が含まれていると思われる。他に目撃者が存在したかどうかは今もって不明だけれども、かりに存在しなかつたとすれば、なぜ一少

一 来 到 の パシ ー テレ



女だけに目撃させたかという問題が残る。

推測によると、こうだ。過去の多くのUFO出現事件を調べてみると、スペース・ビーブルは、ある特定の人物を目撃者またはコンタクトキーとして選んだ場合、何らかの理由で、その周辺の人たちには目撃させないような処置を講じることもあるらしい、という事実が判明している。ある人にはよくUFOが見えたのに、一緒にいた他の人には全く見えなかつたという例があるし、だれかがスペース・ビーブルらしき人を見かけたとき、周囲の人たちは何かの理由で、その現場からはずれていたという例もある。

アダムスキーの高弟であつた故アリス・ウエルズ女史とカリフォルニアのヴィスタで編者が対談したとき、アダムスキー存命の頃、深夜にときどきスペース・ビーブルが家に立ち寄つてコーヒードrinkしながら二人で対談するのだが、そのことはわかつていながらも、自分はひどく眠くなつて熟睡してしまい、起き上がつて彼らの部屋へ行くことはできなかったと述懐していた。どうやらスペース・ビーブルがアリスや他の人々を何かの方法で眠らせてしまつたらしい。

高松事件も目撃者は幼い奈生ちゃん一人で充分だつたので、付近一帯の住民がそのときに限つて家から外へ出たり窓から外をのぞいたりしないような特殊な処置を円盤側で施したのかも知れない。

なぜ奈生ちゃん一人で充分だつたのか？ この理由は二つ考えられる。一つは、もし付近の住民が円盤を見た場合、あまりに接近しているのに動転し、恐怖のあまり物体に関してひどく歪曲した話をすゝるかもしれない。大きな気球が飛んできたとか、目撃しながらも見なかつたと言つる人が一人でもいれば、結局、奈生ちゃんのみが何かの誤認か、それとも心霊的な幻覚だと片づけられるかもしれない。

こんな例はよくあるのであつて、だからこそUFOは出現する場所と人間を選ぶ場合が多いと思われるのである。

二つ目の理由は、円盤側が目撃者を一人に限定して、この事件の真実であることを見抜くテレパシクな、または宇宙的なカルマを持つ人とそうでない人とを

篩い分けたとも考えられるのである。というよりもテレパシーにたいする意欲を高めるように仕向けたのかもしれない。一方、傍証がなければあの事件を真実と断定する根拠が不足しているのではないかと言う人があるだろう。あの事件の記事を読んでただちにGAPを去つた人もいる。幻覚かインテキだと思つたのだろう。

だが高松事件の正解はいつか出てくるだろう。

物証がなければ信じられない、または信じてはならないというのが地球世界の風潮である。犯罪捜査もこの線で進められるし、判決も大体で出される。これは功罪相なればするが、根本的には一般地球人がテレパシクな生き方をしていないからこそ傍証を得ようとするのである。

テレパシーを駆使する偉大な惑星の人々の世界は、地球人のそれとは全く次元の異なるものらしい。といつてそこは靈界ではなく、われわれと同様の肉体を持つ生きた現実の人間の世界である。地球でひそかに暮らしているスペース・ビーブルは外見が地球人そっくりなので見分けがつかず、だれも気づかないという。

しかし、それらしい人を感じする方法がある。それはテレパシーである。別な惑星から来た人であることを識別できる物証などはないので、超常能力的な感知によつて察知する以外に方法はない。宇宙的なテレパシクな能力を有する人について、スペース・ビーブルは何らかの応答をするので、それでわかるはずだ。

その場合、「あなたは別な惑星からいらつしやつた方ですか？」と、言葉の口に出さずに心中でそのような想念を發して質問するのだ。本物ならば微笑してうなずくか、何かの意志表示をするだろう。この実例は少なくない。

テレパシー能力の開発／それは個人の生活を根本的に変えるばかりか、地球世界に大変化をもたらすだろう。来世紀には人間の精神上の改革によつて、人類がテレパシクな宇宙的人間を目指す機運が生じるかもしれない。

テレパシー開発は容易ではないが、全くの不可能事でもない。アダムスキーの著書を丹念に読んで、それなりのトレーニングを忍耐強く続けるならば、緩慢ながらも少しずつ能力が出るようになるのだが、一般地球人は、そんな能力は存在しないと自分で内部に潜在する能力は眠つているのだと、右の著書で説明してある。

知力や技術だけに頼る時代はすぎてしまひ、物理学は最近超常に向かいつつあると、その道の学者は説いている。また、ドヴィッド・ロイらの新心理物理学では、テレパシクな予知法に関する科学的な研究を行っているという（ロイ著「スフィンクスと虹」附土社。またアメリカのカール・プリブラムらが起こしたニューサイエンスも宇宙の万物一体性をホログラフィーの理論を基盤にして説いている。アダムスキーの宇宙的哲学やテレパシー理論は科学的脚光を浴びる方向にあると言へるようだ。



朝霧高原の不思議な“月”

● 伊藤 達夫

第七回目を迎える静岡支部大会が富士山を間近に仰ぐ富士市で開催され、私も松山支部の方々と共に参加させていただきました。大会は今回もまたまた大盛況で、終始会場には久保田先生のご指導のもとに高貴な波動が満ちあふれておりました。

大会の直前に発行された日本GAP機関誌「Uコン」第89号には静岡支部の方々による朝霧高原での素晴らしいUFO目撃体験が報告されています。

大会の夜の度重なるUFOの出現

日頃、定期的に自宅の狭い庭に出て天体観測をしている私は、機会があれば一度UFO出現のメッカである富士山一帯で観測してみたいと思っていました。今回の大会が丁度富士市で開かれることでもあり、良い機会なので早速実施してみようと思いい立ちました。ホテルの七階の部屋から眺めると正面に富士山がそびえ、観測にはまたとない絶好の条件です。

夜の十時過ぎから二十分間という比較的短い時間でしたが、スペース・ビーブルの皆様に想念をお送りし、日頃のご援助に対するお礼と明日の静岡支部大会のご指導をお願いしました。その結果、ネオンの光で見にくいハンディはありましたが、送信中に三度の出現がありました。その前々日に自宅の庭で静岡支部大会の大成功をお願いする想念をお送りしたときにも上空に白銀色の光体が出現したので、これで大会はきつと大成功になると思いました。

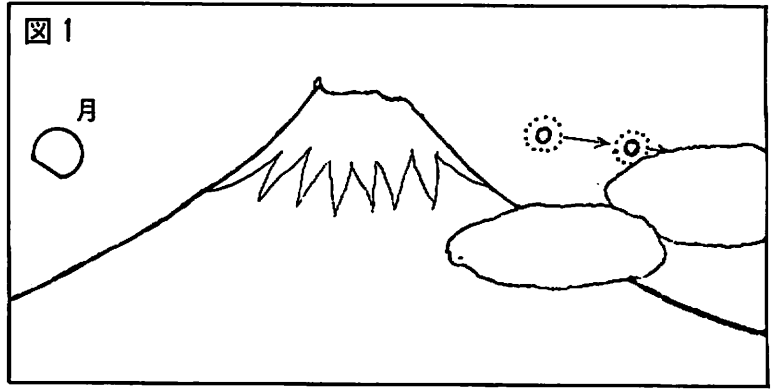
翌日の大会は予想通りの大盛況裡に終了し、加えて三次会の際には、ふと店の外に出られた野口敏治氏が上空を金色に輝く光体がゆっくり移動するのを目撃されています。更に三次会を終えて一同が外へ出た時、数名の会員がまたも上空に白銀色の光体が出現したのを目撃しました。そこで私は「今夜も観測すればかなり出現して下さるかもしれない」と思い、自室に戻ると深夜の一時半から二時までの三十分間、支部大会の大成功を感謝する想念をお送りしてみました。すると予想通り、はつきり確認しただけでも五回の出現がありました。

まず送信を開始してから二分後、左上空をホテルの屋根をかすめて白銀色の光体が出現。その二分後には正面方向をやはり白銀色の光体が右から左へ移動。その五分後には左上空をやはり白銀色の光体がカーブを描いてホテルの屋根に隠れました。さらに五分後には富士山のふもとと付近から白い球体が長い尾を引いて市街地を横切り、途中でホップしながら左方向へ急速度で移動していきました。その三分後には、今度は見かけ上、富士山の七合目あたりと思われる方角にオレンジ色に輝く光体が出現、静止し、約五秒間強い光を放ったあと姿を消しました。そのほか小さな光体も数多く出現していたようですが、はつきり確認するまでには至っていません。

あとでわかったことですが、私が観測していたのとはほぼ同じ時間帯に東京の石田義雄氏も自室で観測をされたそうで、七回目撃したということです。二人が同

富士山付近のUFO

時に観測したことでUFO出現の客観的な裏付けが得られたと思います。おそろくスペースビープルの方々、静岡支部大会の成功と日本GAP創立二十五周年を喜ばれて、祝福・激励のために出現して下さったのでしょう。それをたまたま石田氏と私が目撃したのではないかと思っています。



大会翌日の富士山麓観光に出かける朝、またもやUFOの出現がありました。国鉄富士駅前のホテル・サンライズフジの八階にあるレストランで朝食をとっていると、秋田の佐藤春雄氏が突然「あれは何だ!?」と叫ぶのでみんなが一斉に窓の外に目を向けると、富士山の頂上の少し右側にピカッと金色に輝く物体が非常にゆっくりと右に移動しているのが見えました(図1)。朝の太陽の光に白い積雪をくつきりと浮かび上がらせた富士のそばをまばゆい光体が行く光景は、一種壮麗な感じさえしたものです。その物体は約一分後に近くに漂う雲の背後に入っていました。あとで静岡支部の方に聞きますと、あの付近では飛行機は絶対に飛ばないのだそうです。目撃したのは佐藤春雄氏、佐藤忠義氏、佐藤和枝さん、佐々木朋子、智子姉妹、井川博文氏、小島岩男氏、伊藤達夫その他の皆さん方です。山麓観光では、バスが朝霧高原に着く直前に富士の八合目あたりから、突然黒くて丸い物体が飛び出して付近の雲の中へ入っていくのを見えました。

広島にも奇妙な「月」が出た

市内観光を終えて帰宅したその翌日、広島島の佐々木さんから電話がかかってきました。

「伊藤さん、静岡では大変お世話になりました。どうもお疲れ様です。ところで広島へ帰った夜また空にお月さんが出ていました」。その言葉に思わず「え!? それはいったいどういう意味ですか?」

と私は聞き返しました。

「ですからね、またお月さんが上に出たんですよ。観光で行った朝霧高原の上に月が出ていましたよね。あのお月さんが同じ日の夜にまた出たんです」

彼女の話す意味がわかるにつれて私は一瞬絶句してしまいました。常識では考えられない事が起こったからです。要するに一日のうちに月が二度も空に顔を出したということなのです。物理現象に反する出来事が現実起こり得るものなのか。わが耳を疑ったものです。

「広島駅には夜の十時頃に着き、そのあと九州に帰る光井さんをホームで見送っていた時に、フト上を見上げると月が輝いているんです。それを見た途端に「あれ!?」と気がついたんですね。朝霧高原の上に月が出ていたのは見て知っていたものですから、あれから十時間後の広島空に月が出るのはおかしいと思いました。それで騒ぎ始めたんです。それに高原で見た月はたしか上部が丸くて下が少し欠けた七分月だったのに、広島では半月で、上部が欠けて下が丸くなっているのでよけい驚いてしまいました(図2)」

実に不思議な事があるものです。月の動きを物理的に見ますと月の出から月の入までに要する時間は約十三時間半ですから、朝霧高原の上に出ていた月が十時間後に広島でまた上に出ていたことは考えられません。まして形が違ったり、上が下になったりすることはまずあり得ないことです。しかし実際にそのような現象が起こっているわけで、一体これをどう説明すればよいのでしょうか?



朝から出ていた「月」

この不可解な電話を耳にした時、私は富士山麓観光の朝の出来事を思い出しました。その日、目が覚めると外は日本晴れの素晴らしいお天気でした。なぜか内部から祝福と歡喜の想念が湧き起こってくるのです。「今日はスゴイ事が起こるに違いない」と、その時思いました。窓の外に見える富士山の美しい姿について双眼鏡を向けたくなって眺めていました。

そして少しレンズを左へ移動させてゆくと突然白くて丸い物体が視野に飛び込んで来ました。「なんだろう?」と思つてよく見ると、それはお月様だったので。富士山の少し左に寄った所に白く輝かんでいる月。上が丸く下が欠けた七分の月が北西の方角、朝霧高原のちょうど上のあたりに浮かんでいるのです。時刻は朝の八時頃でした。それはまぎれもなく月でした。日頃昼間の空に白く輝かんでいる月と何ら変わるものではありません。ウサギがモチをついている姿まできくつきりと浮き出ているのです。不審な点は全く見受けられませんでした。た

だ最初にその月を発見した時は「なんであんなところに出てきているのだろう」とけげんな思いにかられたのは確かですが、いつでも見かける平凡な光景でしたからあまり気にとめないで、そのまま月のこととは忘れてしまっていました。まさかあの月がその場に居るはずのない幻の月、だとは夢にも思っていなかったのです。しかし後になって、本当のお月様はその時刻には東の地平線のはるか下方にいたことがわかりました。

本物の月ではなかった!

とにかく佐々木さんの電話を受けて不思議な気持ちにかられた私は早速事の真相を確かめようと、静岡の気象台に電話をかけて聞いてみました。観光当日の月の出入の時間がわかれば、事実関係がはっきりすると思っただけです。気象台の人は親切にデータを調べて下さいました。それによりますと、四月二十九日①の静岡地方の月の出は正午、月の入は三十日の午前一時三十七分であることがわかりました。聞きついでに「二十九日の朝、富士市の駅前のホテルから見ると富士山の少し左側に月が出ていたのですが、そういうことはあるでしょうか?」と尋ねますと担当の人は驚いた様子で、「あの日にその時間帯に富士山の左に月が出ることは考えられません」と当惑した様子で語っていました。その日の正午でないで地平線に姿を見せないはずの月が、朝早くから出ていたというのですから、気象台の人も意外な問い合わせにびっくり

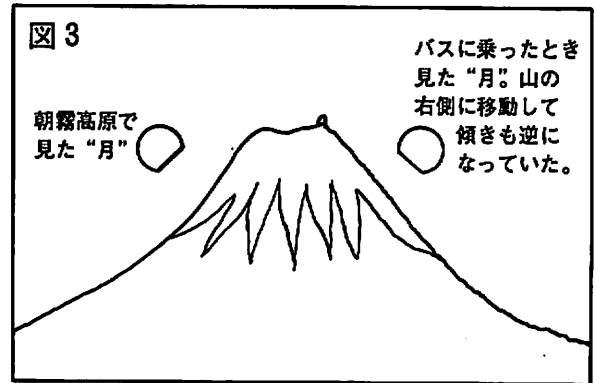


図3

とき、山の上に乗ったバスに、逆移動した。傾き、右側に見た。

朝霧高原で見た“月”

したのだと思います。

この気象台の客観的なデータによって、あの朝、あの角度と時間に月が出ることは全くあり得ないことがわかりました。つまり私が見た月は、本物の月ではなかったのです。それにしても、どこから見ても月としか見えないあの不思議な物体の正体は何だったのでしょうか?

その日、GAPの一行がバスで朝霧高原に着いて間近かにそびえる富士山を眺めながらひと時を過ごした際にも上空に白い月が出ていたのを多数の人が目撃しています。久保田先生も天頂付近にはつきり見たと話しておられました。富士の近くの空にお月さまが浮かんでいるとい

う何の変哲もない光景にほとんどの人は疑問を差しはさまなかったに違いありません。

しかし、この「不思議な月」は実は人工物体としか思えない奇怪な動きをしていたことがわかりました。何とはなしに月を観察していた佐々木さん達の報告により、みなで高原にいた時には富士山の左側に出ていた月が、間もなく一行がバスに乗り込む時に見ると、富士山の右側に移動しており、しかもその傾き具合も正反対になっていたのです(図3)。明らかに人工的な意志を持って動いたとしか考えられないこの月の正体は何か? 謎は深まるばかりです。

月に擬装した円盤か!?

ただ確実に言えることは、この日、早朝から不思議な月が朝霧高原の上空に何時間も滞留しながらGAPの一行が来るのをじっと待っていたということでした。そして高原でみんながくつろいでいる様子を見つと上から見守っていたのです。おそらくこの幻のお月様はGAPの一行が高原を立ち去るのと前後してその姿を消したのかもしれない。なぜなら、まもなく本物の月が富士山の左の山すその上に姿を出すことになっていたので、その夜は昼間の月とパトナッチした本当のお月様が朝霧高原一帯を晒しと照らしたことでしよう。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

編者付記 静岡支部大会の翌日、富士山麓周遊の観光にバスで富士駅前を出発したのは朝十時だった。前日の曇り空とは打って変わって一点の雲もない快晴で、大自然の祝福のフィーリングに満ちているような日であった。

五十六名の乗る大型バスは碧空に映える白銀の富士山をまじかに仰ぎながらまず田貫湖で小休止し、湖畔を散策後、十一時三十分頃にここを出発して朝霧高原近くのグリーンパークで昼食をとり、当日のメインの観光地朝霧高原に着いたのは十二時四十分頃であった。

この高原は静岡支部の六名のメンバーが昨年十二月十日夜、厳寒にふるえながらテレビシーで上空に呼びかけて、連続四十機以上もUFOが出現した場所なので、一同はこの意欲深い土地を特に選んで下車したのである。その時刻は十二時四十分頃だった。

名峰富士が優美に眼前にそびえている。バスを降りた私はまず上空を見上げた。UFOらしき物は見えないかと思ひ、双眼鏡を目にあてたりはざしたりしながら見渡すのに、天頂付近の白く薄い月以外には何も見えない。双眼鏡で月をのぞくと、下側が少し欠けた月面の黒い海が、あちこちぼんやりと見える。

この月を観測した時間は約十秒ぐらいで、すぐに富士山の頂上へ対物レンズを向けて、しばらく眺めていた。紺碧の空に大きく浮かび上がる秀峰は、まったく溜息が出るほど美しく、感傷的にさえなってくる。エジプトのピラミッドと同じで、写真を何枚見るよりも本物を近



●朝霧高原における日本GAP観光団。(上空から円盤が見おろしていた?)

前列左より4人目が野口静岡支部代表、6人目の登山帽が編者。2列目中央の濃紺ネクタイが筆者・伊藤達夫氏。

くで目撃しないことには雄大きを突感で
きない。しかも晴れた日でも富士山頂は
いつも雲の笠をかぶっている場合がほと
んどなのに、こんなに輪郭が鮮明に見え
る日は珍しいのだと地元の人たちが言っ
てくる。観光団はみな一斉にお山を注視し、秀麗
さを讃えている。なかには初めて富士山
を見たという遠来のお客さんもあって、
一行は佇立して動こうとしない。

結局ここで約一時間をすこし、去り難
い思いにかられながらバスに乗ったのは
一時四十分頃だった。連休なのに観光客
は意外と少なく、あちこちで家族づれ
が遊んでいる程度だ。

バスに乗る前に私はふたたび頭上を仰
ぎ見た。このとき一時間前に見えていた
月が見えたらなような気がしたが、別
段気にとめずに乗り込んだ。

結論を述べると、なんとこの「月」が
UFOだったのである。その理由は前
出の伊藤氏の記事で明白となってくる。
編者(久保田)は後日この問題で伊藤氏
や篠氏、野口氏らと何度も論議し、天文
学関係の資料を調べたり、伊藤氏は静岡
気象台に照会し、編者も天文関係機関に
問い合わせたが、朝霧高原であの時刻に
天頂付近に月が出ることは絶対にはあり得
ないことが判明したのである。しかも伊
藤氏は同日の朝も月を見ているのだ。

これがいわゆる円盤だったとしたら、
なぜ月に擬装して出現したのか? 数名
で討論した結果、一同のテレパシクな
能力を試そうとして故意に月に見せかけ
たのではないかという結論に達した。別
な惑星から来た本物の円盤ならば、これ

ぐらゐの擬装は朝飯前であることを、数
年前にある場所で壮絶な体験をした編者
はよく知っている。フォースフィールド
やその他の方法を応用して船体を雲のよ
うに見せかけたり、透明な状態にしたり
(実際は船体が透明になるのではなく、
人間の目にそのように見えるだけだが)、
本誌88号に掲載した高松市の円盤のよう
に船体の外に美しい巨大な「ネックレス」
を作り出しては消滅させたり、その他、
地球人の想像を絶した「芸当」がやれる
のだ。

だが私たちは富士山に目を奪われてし
まい、夢中になりすぎたために、上空の
「月」を円盤だと見抜くことはできなかつた。
四つの感覚器官(目、耳、鼻、口)
をコントロールしてセンス・マインド
(心)を内部の宇宙の意識と一体化させ
よというアダムスキーのテレパシー理論
の重要さをあらためて痛感した次第であ
る。

それにしても月の出や入その他の天文
学上の予備知識を持って旅に出かけるこ
との重要さも考えさせられた。天文年鑑
の本年度分、双眼鏡、望遠ズームレンズ
付きのカメラ等、七つ道具一式を携行す
るとよいのだが、カメラは35mm一眼レフ
にズームレンズを装着すると、かなりの
重量になる。ハーフサイズの超軽量小型
機が復活して、優秀なズームレンズと共
に市場に出ることを切望してやまない。

とにかくあの不思議な「月」を撮影し
た人が一行中に一人もいなかったのは残
念だった。もし撮影して大きく伸ばせば
普通の月とは違うことがわかったらうに。

旭川にも

月擬装 UFO 出現

石川 晴道

本誌第88号に掲載された「驚異の高松市円盤降下事件」といい、四月二十九日、静岡支部大会翌日の富士山頂上空に出現した、月に擬装した円盤といい、これらは日本GAPに対する偉大なる宇宙の兄弟たちからの限らない祝福と激励のメッセージにほかならないと思う。

後者について言えば、実は一九七八年七月、北海道旭川市東鷹栖町において同じ様な月に擬装した円盤が出現したのである。当時私は旭川支部設立にむけて積極的な行動を展開し、周囲にUFO問題に関する情報を広めていたがその結果、会員の山内さんを始めとする、アダムスキー氏とGAPを支持する数名の人達とUFO共同観測を実施することになった。その日は雨模様でぐずついた天候であったが観測は朝十時頃から夕方六時半過ぎまで続けられた。観測地は私の自宅から車で十五分程度の所であった。その場所ではかつてUFOを十数回目撃したことがある。

午前中は雨が降ったりやんだりで、なかなか車の外に出られなかったが、午後

一時頃から空も明るくなって、ようやく観測を開始することになった。

午後二時半頃雲の合間からUFOらしき光体が出現。何人かが発見して大騒ぎになった。そしてその後、今度は私の立っている頭上を超高空で巨大な光が走った。それも薄霧り空の上からライトを照らすかのようにである。しかも三回くり返して同じ方角から（ほぼ北から南へ）三回くり返して行われた。残念なことに一瞬の出来事で、また私一人だけ離れていたため、目撃を裏証する人はいなかったが、今でも映像化して再現することができ。

夕方五時頃になって月が現れ始めた。みんな円盤着陸を期待しての行動だったが時間も時間だし……という気持ちでいた様子だった。ところが突然、約四・五メートル右側にもう一個の月が出現したのだ。ちょうどUFO写真を撮ろうとして三脚まで用意していた仲間の一人にカメラに収めるようにお願いした途端、左側の月が消えてしまった。

いったいこれはどういうことなのか？

私にはこの不思議な現象を理解することができなかった。おおよそ西側に現れた二個の月であったが、消えてしまった左側の月の方は大きさは同じだったが、色が本物に比べて少し薄く、光り具合も弱かった。

今回静岡に出現した月に擬装した円盤と同一の物ではないだろうかと思うほどである。結局当時、初めに月に見せかけて円盤が出現して私達の方を見ていたがそれに気がつかないでいた。そして本物の月の出現によって円盤が去って行ったことになる。ということとはスペース・ビールはあえて私達の計画を知っていて月の出る時刻と天候を計算して一般の人達に気づかれないように出現して下さったことになる。

それから約一週間後、その時の仲間の一人と一緒に同観測地に夜八時半過ぎ出かけた。そうしたところ星も出ていない真暗闇の中に突然二個の光る球体があり、その光る球体は半テンポ遅れた状態。車のライトとは全く相違した球体は明らかにUFOであると確信が持てた。さらに数本立っている木の上を左から右へゆっくりと移動してパッと消えてしまった球体が現れたのだった。

前者の二個の球体の大きさはソフトボールの2・3倍程度だった。後者は星より少し大きかった。

これら一連の出来事の背景には根拠があった。それは私が興味本位でなかったこと、そしてこれらの出現が旭川支部設立に期待するメッセージにほかならない

と思われたからである。

イスラエルに出現した巨大な「月」

私の知人であり友人でもある「ゴダイゴ」のリーダー、ミックキー吉野氏から聞いた話によると、海外コンサート・ツアーに出かけた際（「ビューティフル・ネーム」等が大ヒットした年、イスラエルを訪問したそうだが、昼間地平線沿いに巨大な月が出現したのを見たそう）、通常の月ではなく別の存在であることが判別できたということである。当時のイスラエルは戦争の激しい状態にあつて、無事に日本に帰ることが出来れば良いなあと思っていたところ、巨大な月の類似物を見ることになったそう。

おそらくその類似物はUFOの可能性が強いとみている。考えられる原理は、静岡と旭川の時も同じだと思うが、円盤の特殊技術によって人工雲のようなものを放ち、その中に円盤を隠して外観を月とそっくりの状態にすることができのだからと思うのである。たぶん母船ではなかったのだろうか？

ミックキー氏は滞在中、メンバーと一緒に上空を行くUFOを目撃したとも言われた。それに付け加えて、氏は以前米国のパグリー音楽院在学中何度もスカウト・シップを自撃したそうである。日本においてはコンサート終了後、夫人とタクシーで帰宅する途中UFOが後から追いかけてくるという出来事もあったこと、さらには、湖のほとりに腰をおろしていたところ突然ザパッと水しぶきを上げ

て飛び立っていった円盤を目の前で目撃してびびりしたということも三年前話してくれた。

ミッキー氏はとても謙虚なあたたか味のあるやさしい人柄のピアノリスト兼作曲家としても有名である。よくテレビ番組の音楽も担当している。また氏をとりまく人々の中にUFO問題の真相を知りたがっている人達が数名存在する。その人たちの人柄もやはり謙虚なミュージシャンで目が明るく輝いて見えるのである。

スペース・プログラムと転生

過去数十年活動を続けてきた各国のUFO研究グループは今や減少の一途をたどり、かつてアダムスキー師が期待していた米国グループも停滞ぎみという現状にあって、私達のこの日本GAPという団体が世界のトップクラスの研究団体として今もお加速中であることにスペース・ピープルが期待を寄せられるのは無理からぬことであろう。このことには無体験によって私自身もはつきりと確信することができた。

これからの国際情勢は表向きの米ソ対話の平和交渉にかかれて経済・金融市場の行きづまり、そしてポール・シフトの問題が浮上してくる。現在深刻化しているアフリカの干ばつ状況を新聞・テレビその他で知っていることと思うが、それよりもっと深刻化した問題が起こりつつある。私達のスペース・プログラムはそのことを知った上でのプロジェクト・チームを必要としているのである。少なく

とも私はそのチームの一員でありたいと思っている。

本誌第89号の遠藤昭則氏の「金星文字解説研究」の記事を読んでみてわかるように、宇宙の法則を探求しようとする者には絶対に理解できないのが金星文字である。遠藤氏のことは本部月例会のレレパシー練習等でおなじみのことであろうが、何よりも氏の誠実さと謙虚さがオーラ透視、金星文字解説を可能にするのであって、通常の世間一般の科学者たちがどんな資料を分析研究しても超能力の真髄に迫ることはできないだろう。

最近、GAP内部で、もしも空飛ぶ円盤を自主製作しようとする真剣に考えるならすべて可能ではないのだろうか？と強く思われてならない。会員の職業をみても今現在、宇宙開発の研究者として仕事にたずさわっている人や設計者としてコンピュータ技術者、その他芸術家、作家、医師、教師と各々の分野でみな頑張っているのを見ても実にバランスがとれていると思うのである。やる気さえあれば宇宙の英知とスペース・ピープルのご援助によって全く可能ではないかと思うのである。こんなことを言うとかの狂言団体のように解釈したり攻撃してくる現実主義者と自称する者たちが存在するものだが、そういう彼らは理解力の欠乏者なのであって気にすることはない。

私達は宗教団体では絶対にならない。まぎれもなく宇宙計画に参加してN.A.S.A.よりはるかに近隣惑星のことを理解している研究グループである。そして、その研究内容にしても生命そのものから

出発するという科学集団なのだから「転生」すなわち「復活」についての認識は宇宙の法則という観点からとらえたところの「奥儀」を旧約聖書以前に求めることができるのである。

あるインフォメーションによると久保田先生は別な惑星からGAPの任務を遂行するために地球に転生してきたということだが、それに加えて、自分が他の進化をとげた高度な文明を持つ惑星から、宇宙計画の一員として転生してきて、その目的を達成しつつあるのだと自覚できる人はスペース・ピープルそのものなのだ！

また、本人は気がつかないでいるがやはり進化をとげた惑星から転生してきた人々が少なからず世界中の何処かに存在するはずである。ちょうどJ・シュトラウスが当時戦争と貧困にあえいでいるオーストリアにあつて希望の光を与えに金星から転生してきて後に再び金星に帰つて（転生して）いったという話を聞いたことがあるが、かつてのビートルズのメンバーで全世界に大センセーションを起こしたジョン・レノンもその一人であると確信している。

アダムスキーを支持する有名人

彼はアダムスキー師のことをよく知っていたし、実際に円盤に乗って他の惑星社会を訪問した可能性が強いのである。夫人のヨーコ・オノさんは亡き夫の代理人としてグラミー賞受賞式の席上、聴衆に向かって「皆さん、ジョンは今も皆さ

んと共に生きています。彼は死んではいません。この榮譽を大変感謝します。今こそジョンの音楽を地球人類の平和のために、そして全宇宙の平和のためにきかれます」と挨拶をしたのであつた。たしかにジョン・レノンの作詞の中に「仮にUFOがニューヨークの街に降りてきても別に驚きはしない……」という一節がある。

日本の芸能界においても少なからず宇宙志向の人々が存在している。最初に述べたミッキー氏はその言うまでもない。他に面識はないが俳優の大和田信也氏などはUFOを見る度に「人類の平和のために何かしなくては」と思うそうだ。

私と同じ郷里出身の人気バンド、安全地帯のリーダー玉置氏とリード・ギターの武沢氏などはアダムスキーの体験を支持していて、観測もよく試みた人々である。二人とも信念の強い持ち主である。何ごととも恐れないこと！これが信念をつらぬくことにつながり、成功への近道になるのだと私は思う。だからと言って全く無防備では危害が及ぶこともあり得る。だから「ハトのように隠和に、ヘビのように賢明に」というアダムスキー師の言葉が必要になつてくるのである。

地球上で生きる上では誰もがいやな苦い体験をするかもしれない。そんな時こそ気軽に語り合える友情の輪があればどんなにかお互いを激励し合えることか！

「すべては創造主なる父と共に歩まんことを」。そして今一度自分達のなすべきことを自覚したいものである。

尾道市に出現した黒円盤と母船

今を去る十一年前のことで少々古い話だが、広島県の尾道市にアダムスキー撮影の円盤と全く同型のUFOが出現し、高校生が撮影するという大事件が発生した。この件は、当時編者が別な出版社から発行していた全国書店向UFO専門誌に詳細な記事と大判カラー写真二点を掲載して大反響を起こしたのであるが、その後当時のUFOブームが下火になって以来同誌は廃刊となり、この事件も忘れ去られてしまい、ご存知ない方も多いと思うので、ここにあらためて紹介することにした。これは当時アダムスキーの体験を真向から否定する人たちにショックを与えた大イベントであった。

尾道は広島県東部に位置する、瀬戸内海沿岸の港町である。昭和四十三年に向島とのあいだに尾道大橋が開通して発展の機運が高まった。平安の荘園時代から港として発達し、千光寺、西国寺、浄土寺など由緒ある寺院が山沿いに多い。志賀直哉や林芙美子らの小説の舞台にもなっている。

この町の丘陵地帯にある栗原町の一角

に藤松学さん一家の新築した家屋が建っており、この二階に息子さんの和彦君の部屋があった。当時広島県立尾道工業高校化学工学科一年だった同君は、七四年（昭和四十九年）十月十一日の早朝、六時二十五分頃に目を覚まして、そのまま横になっていた。

そのとき急に胸騒ぎが起こってきた。一種の不安な気持ちにかられてイライラしてくる。体調はよいのに頭が普通ではない。どうしたのだろうかといぶかりながら起き上がって、ふと南側の窓をあけてみた。六時半頃だ。

すると南東の千光寺山の上空に細長い黒い物体が浮かんでいる。最初は静止しているように見えたが、徐々に動きだした。初めは飛行機かと思ったが、よく見ると翼がない。これはいわゆるUFOかと急に胸が高鳴ってきた。

物体は見かけ上、長さ約四十メートルぐらいで、無音のままゆっくりと北西に向かつて飛んで行く。

和彦君はとっさに机上にあったカメラをつかんで撮影した。学校の運動会のように使ったフィルムの残りが入っていた

のは運がよかった。16ミリフィルムを使うコダック・インスタマチック20だ。

続けて二枚写すと、巨大な黒褐色の葉巻型物体は北西の久山田上空に消えていった。目撃した時間は約四十秒である。

ところがその物体が見えなくなつてからすぐに今度はその方向から逆向きに帽子型の物体が出現した。同君はその頃アダムスキー問題をよく知らなかったために、「帽子型円盤」と言っていたのである。

この物体も無音のままゆっくりと飛行したので、同君は続けて三枚撮影した。約五十秒間見たあと、円盤は北西の方向に消えた。

「えらい物を見たのう」と同君は恐怖感におそわれた。何かよくないことが身に生じるのではないかと一瞬気になり、驚異と不安でいつとき果然となったが、とにかくフィルムをD.P.店で現像してもらうと、たしかに目撃した二種類の物体が写っていた。

八日後に二度出現！

当時UFO問題についてはほとんど関心も知識もなく、テレビでUFO番組をちよつと見た程度だという藤松君は、この写真を八日後の十九日に学校へ持つていつて級友たちに見せた。

反応はさまざまだったが、強い関心を示したのは同級生の高良輝久、砂田邦政、向井芳臣の三君である。これは本物の円盤だ、母船だなどと騒ぎだしたので、藤松君もやっぱりUFOを写したのだとだいに自信がついてきた。

同日学校は午前中で終わったので、高良君が藤松君の家へ遊びにやってきた。午後一時半頃、二人で仲良く昼食をとっていたとき、またも藤松君は胸騒ぎを感じて心臓がドキドキしてきた。

「この前と同じ状態になった。また円盤が出るかもしれないのう」

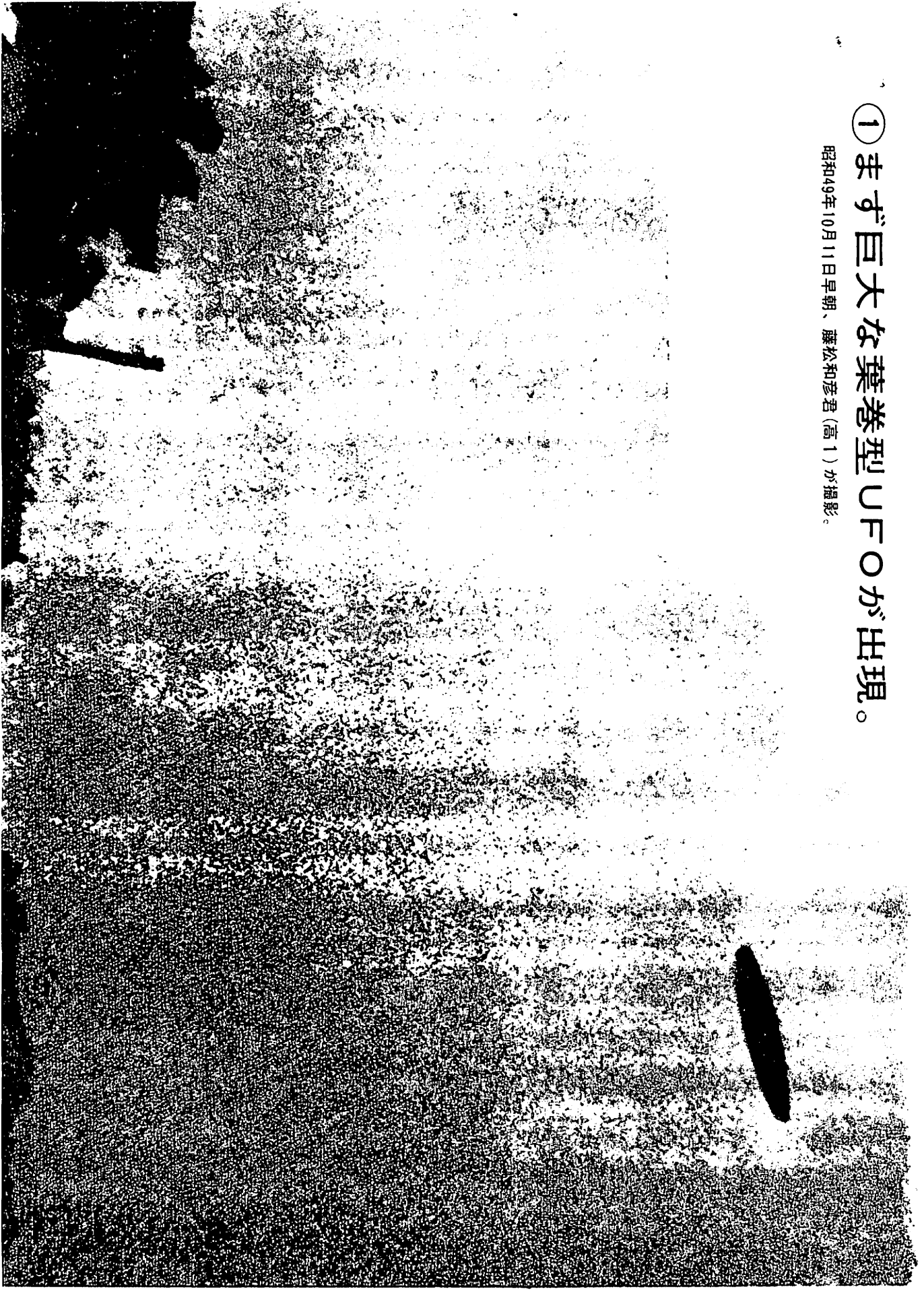
二人は大急ぎで二階へ上がり、同じ窓から上空を見ると、十一日に見たのと同じような黒い円盤が飛んでいる。

このときはカメラにフィルムが入っていないかつたために撮影はしなかった。

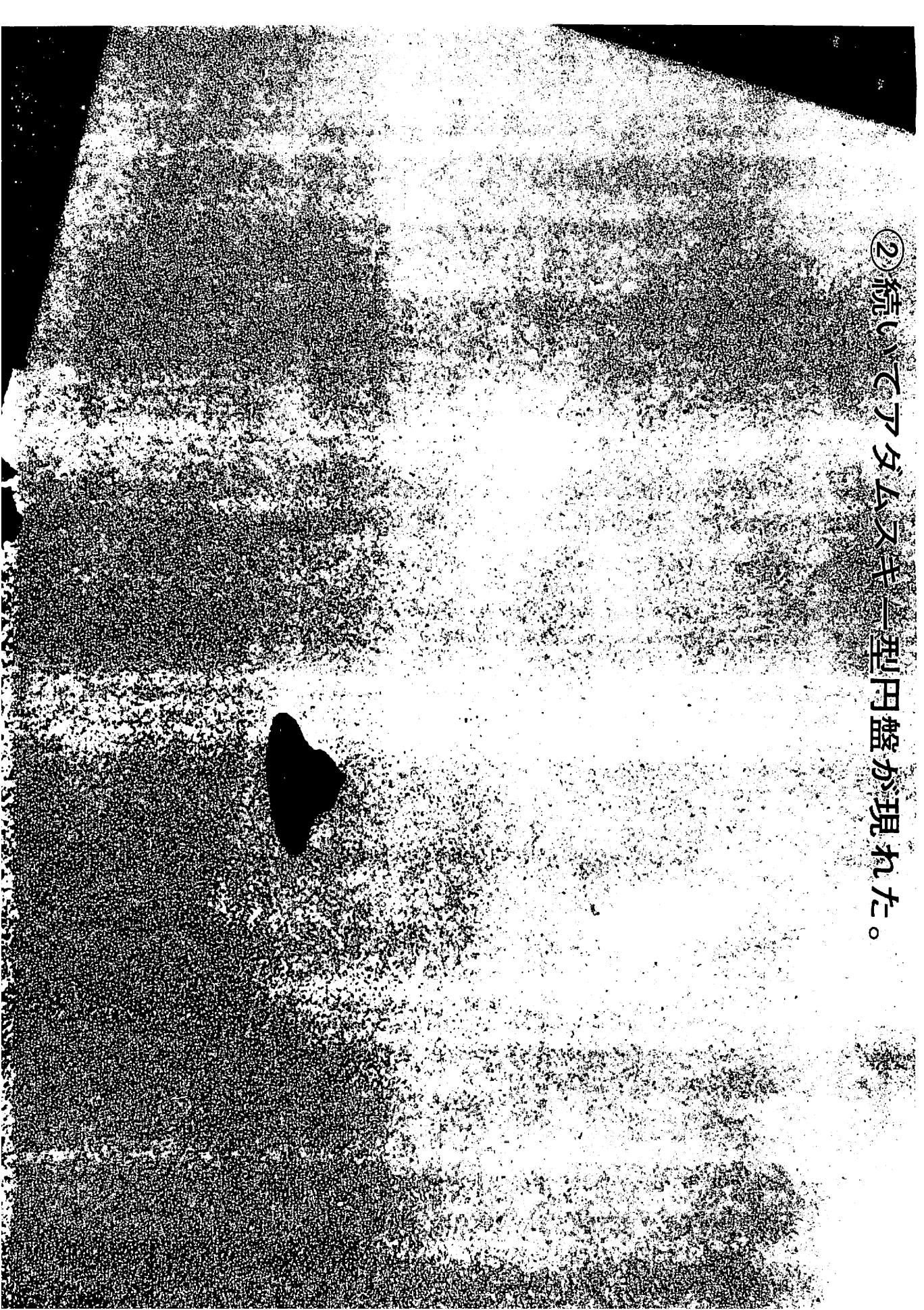
そのあと砂田邦政君と向井芳臣君の二人がやって来た。今日も円盤が出たとか

① まず巨大な葉巻型UFOが出現。

昭和49年10月11日早朝、藤松和彦君(高1)が撮影。



②続いてアダムスキ型円盤が現れた。



何とか話し合っているうち、午後二時半頃、二人が帰ろうとする直前にUFOが出現したのをこの二人だけが見た。最初は葉巻型の物体が見られたが、そのあと雲の切れ目から三角形みたいな黒い物が約十秒見えたという。したがってこの日は二回出現したのである。

まじめな人物という証言

十一日に藤松君が見た帽子型UFOの底には三個の丸い玉があるのを肉眼で確認したというが、逆光のために写真には写らなかった。しかしこの物体がいわゆるアダムスキー型円盤と呼ばれていることは、後日同志社大学の学生から教えてもらったという。それまで同君はアダムスキーの本などを読んだことはなく、アダムスキーに関しては全く知識がなかったのだが、学生の人たちから話を聞いて知ったと言っていた。これは編者が翌年一月十二日に尾道市の同君宅を訪問した際に直接聞いた話である。したがって当時一部のアダムスキー否定論者が、高校生たちのでっちあげだと批判したのは、全く当を得ていないことがわかる。

しかも十九日に砂田君と向井君の二人が見たUFO出現と関連があると思われる別な目撃証人が現れた。藤松君のUFO撮影事件の記事を中国新聞で読んだ同市新浜町の土建会社堀田組社員、中山勇さん(当時二十六歳)が「自分も十九日に円盤を見た」と名乗り出たのである。

中山さんは同日午前十一時半頃、会社の寮の七階の窓から千光寺山の方を見て

いると、頂上付近を葉巻型のUFOがオレンジ色に輝きながら山のむこうへ飛んで行くのを約五秒間目撃した。

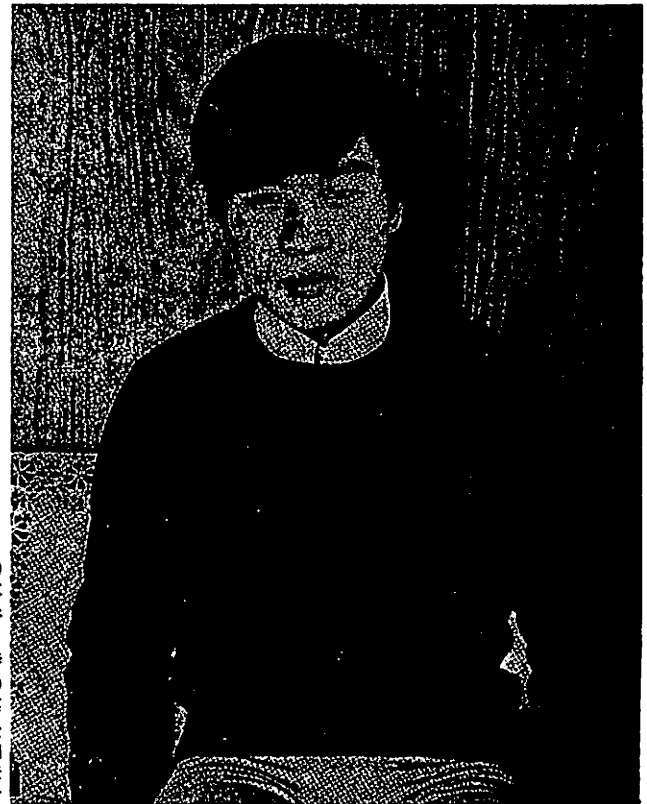
「山の斜面がオレンジ色になっているので、一瞬山火事ではないかと錯覚した」と言う。「信じられぬ現象だから、だれにも話していなかったが、新聞を読んで間違いないと思った」(同月二十二日付中国新聞)

いったいにこの年の十月には備後地方にUFO出現ブームが発生しており、これについては中国新聞尾道支局の真田恭司氏がかなりの情報を集めていた。藤松君の撮影事件をいち早く報道したのはこの人である。これにより東京から週刊誌の記者やテレビ局などが同君宅に押し寄せたという。

真田氏の話によると、藤松君と他の三人の高校生の話は一貫してスジが通っており、真実の体験に間違いないという。また藤松君の担任の先生も「本人は非常にまじめな、素直な、明るい性格で、信頼のおける人物です」と編者に語っていた。

メンタリティーの相違

編者が十年前尾道で取材して歩いた結果を総合すると、アダムスキー型円盤と母船が出現して撮影されたことは絶対に間違いないと断言できる。そして今更いうまでもないが、アダムスキーが撮影した円盤や母船なども、別な惑星から来た本物の宇宙船を撮影したものであることも間違いない。



●事件当時の藤松和彦君

ひとつ現地で聞いた秘話を紹介しよう。藤松君の事件を何かで知ったあるUFO研究者が、同君に面会するために学校を訪れた。この人はアダムスキーをひどく攻撃するので知られている。ところが担任の先生は、一目でこの人物の「意図」を見抜いて、同君に会わせないで追い払ってしまったという。この先生の眼力もさることながら、世界でも珍しい驚異的体験をあたまたかから疑ってかかり、インチキ

として葬り去ろうという魂胆でやって来たその人の執念深さには考えさせられるものがあつた。人間のメンタリティー(ものの考え方)や直感力にこうも大差があるのかと思わずにはいられない実話である。

藤松君は現在二十六歳の立派な青年に成長し、すでに結婚して、自宅から会社に勤務しているが、あれ以来、UFO目撃の体験はないという。

人間の想念に 応答する植物

***** 小川 隆 *****

人間の愛の想念を受ける草花と、受けない草花の成長はどのくらい違うものだろうかという考えが起こつたのは、昭和五十七年の四月だった。

当時私は青少年ホームという十代から二十代の若い人たちが集まってサークル活動や講座活動などを行う所を利用していたので、このホームの中でコスモ同好会という宇宙研究会を作った。

ある時、私は何か目に見える物で実験の対象になるものはないかと考えた末、今度の実験を思いついた。この会は一般の人たちに少しでも宇宙的な方向へ目を向けてもらおうと考えて始めたもので、月に一回集まって天体観測やテレパシーの話などをやっている。

金蓮花による実験

実験は昭和五十七年四月十七日から始めた。実験に用いた草花は金蓮花である。二つの植木鉢を用意し、タネは一つの鉢に三個まき、同じ条件の土と肥料と水を与えた。こうして二つの鉢の植物の一方に愛の想念を放射し、他方には放射しないことにし、植物の反応を見ることにしたのである。

公共の場所での実験なので、いたずらされて、どちらが愛の想念を受けた植木鉢か不明になってはいけなないので、愛の想念を送る方の植木鉢には黒のガムテープを貼り、星のマークを描き、さらに植木鉢のフチに三角のキズを三カ所つけておいた。(写真1)

タネをまいた日はタネと一体化したフ

イーリングを起こすようにし、大きく元気に育ち、花がいっぱい咲いているイメージを描いて、その想念を両タネに送った。

実験の経過

四月二十六日。芽が出る。愛をそいでいる方は元気がよい。茎も太い。(写真2)
四月二十七日。今日から日当たりを一日交替にする。これは柱に近い方の鉢は日当たり時間が少ないので、条件を同じにするためだ。愛の想念を放射している方の茎は細いが成長が早い。しかも青々としている。

五月一日。愛の想念を放射している方は、分かれている枝の間から出ている芽の伸びが早い。愛を放射していない方が大きくなってしまった。(写真3)

五月三日から五日まで日本GAP沖繩支部大会出席のため留守をするので、職員の方にやり水を頼んだ。沖繩滞在中も夜はホテルのベッドの中で草花のことを思い出しては愛の想念を送り続けた。

五月十三日。愛の想念を放射している方は葉がきれいだ。からますに、あまり垂れずに成長している。(写真4)

この頃から「元気に大きく成長し、花をいっぱい咲かせて下さい」と思念するとともに、そうなっている光景のイメージを描く。この頃から草花が部屋の中に置いてあるので口が当たらなくなったようである。

七月二十八日。愛の想念をそいでいる方に赤い花が一つ咲いた。「やった」と感激で胸が一杯になった。愛の想念を

放射していない方は花もつげず、完全に枯れる一歩手前である。(写真5)
このあと七月三十一日から八月四日まで青森支部大会を兼ねた観光旅行で留守をするため、また職員の方にやり水を頼み、青森から帰ってから花がいっぱい咲く想念を送った。

ところが青森から帰ってみると、八月二十五日までに赤い花が二つ咲いたにすぎなかった。

八月二十六日になって、ある事情により、草花を青少年ホームより撤去することになったので、実験を終了にした。

私は両方の草花に「ありがとう」と言わずにはいられなかった。私の分身と別れるような気持ちになり寂しくなったが、一方ではなぜか幸せな気分と満足感をおぼえた。

実験中は草花と一体というフィーリングを持っていた。私が元気がないときは草花もしおれ気味になるので、これではいけないと思つて草花を見ながら楽しい想念を起こして、「元気になりなさい」とテレパシーで語りかけると、次の日は元気がなったこともあった。これは愛の想念をそいでいる草花の方のことである。水のやりすぎのためか両方の草花共成長しすぎたようだった。

今回の実験を通して、植物がこれほど大きな反応を示すのかと驚くとともに、自信も得た。実験を始めた当初、懐疑的な人、信用しない人、笑っている人などがいたが、これらの人々から結果についての感想は何も出ていない。

植物が人間には未知の「意志」を持つことは、むかしニューヨークのバクスターがウン発見器とサポテンを用いて実験した結果でも高い。

以来世界各地の先覚的科学家がこの実験を試みて同じような成果をあげたことはよく知られている。

しかし人間の想念と植物が示す反応との物理的因果関係が明確にならぬままにこの種の実験も忘れ去られようとしている。

植物を形成する原子・分子は、いわば生きものであり、人間の想念に応答するという事実を確証するためには、実験によって証明を得なければならぬ。実際の証明の積み重ねによってこそ、その事実が判明する。

そこで日本GAP会員・小川隆氏は純粋な意欲と科学的精神、さらに人一倍の忍耐力により、愛の想念が奇跡的な効果をあげること立証したのである。



写真1

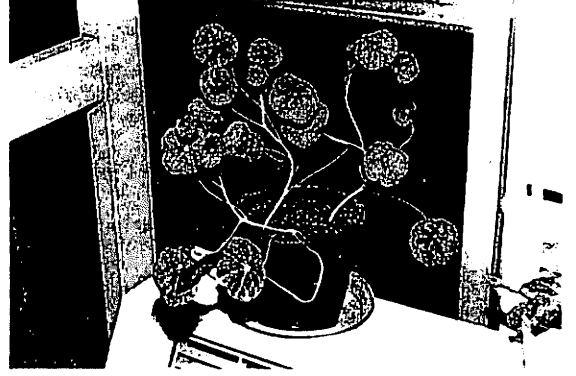


写真4



写真2

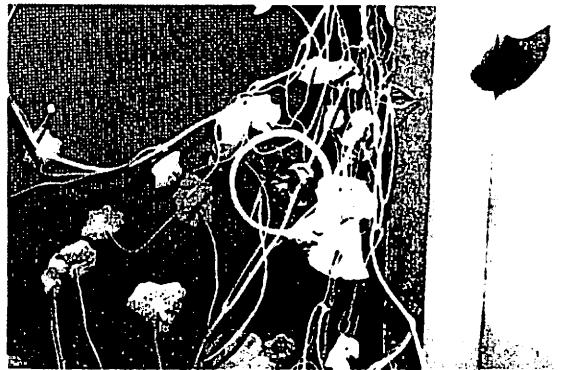


写真5

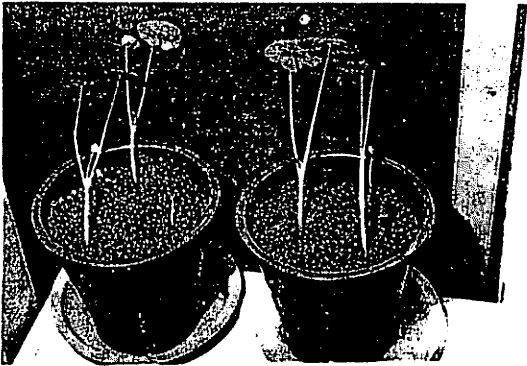


写真3

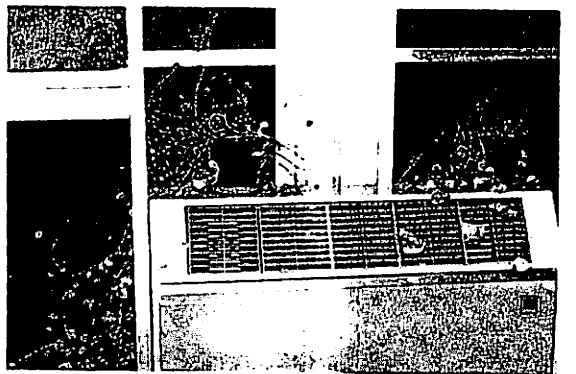


写真6

写真1 = 右側が愛の想念を受ける鉢。写真2 = 右側の伸びがよい。写真3 = 愛の想念を受ける鉢は左側に移されている。写真4 = 愛の想念を受けている方は葉がきれい。写真5 = 赤い花(○印)がついた。写真6 = まだ赤い花が咲いているが、右側は完全に枯れている。

イエスと転生

星 香留菜

二千年前にエルサレムで劇的な最期をとげたイエスについては多くの憶測や説が出ていたが、かつてアダムスキーに親しく接して教えを受けた海外のある人から、イエスの最期と、いわゆる「復活」に関する真相をアダムスキーから何度も直接に聞いた話として、次のような興味深い情報が寄せられた。

「イエスは実際には十字架上で完全に死んでいなかった。彼はインドのヨギ（ヨガの行者）がやるように、深い昏睡状態におちいった。新陣代謝がひどく低下し、呼吸もほとんど止まり、生きているようには見えなかった。十字架から「死体」が降ろされて一同が墓の中に運び入れた。これも、この意識不明の状態は続いた。二人のスペース・ビープル（異星人）が夜間、墓の中へ入ってイエスに何らかの処置をほどこして生気と体力を取り戻させた。それでイエスは生き返ったのである。

そのあと、しばらくイスラエルに住んだので、弟子たちやイエスを敬愛した人たちにこの事実が知られるようになった。しかしイエスは後に別な惑星から来た宇宙船（円盤）に乗せられて飛び立った。このことは新約聖書の使徒行伝の第一章に「昇天」と表現してある。

「ひとむらの雲がイエスを包んで見えなくした。イエスが上って行かれるとき、

彼らは空を見つめていた。すると、そのとき突然、白い衣をまとった二人の男が彼らのそばに立って……（中略）天に上るのをあなたがたが見たのと同じ有様でまたおいでになるであろう」

アダムスキーによれば、この二人の男はスペース・ビープルで、イエスは円盤に乗せられてどこかへ連れて行かれたのである。そして右の二人の男の言葉どおりに、後日また円盤によって地上へ帰ってきた。アダムスキーはイエスがアメリカのデザートセンターへ連れて行かれたとは全然言っていない。

磔刑のときに弟子たちは殺されるのを恐れて逃げたが、ヨハネだけはイエスを救出しようとして最後まで十字架のそばに立っていた。二千年後の現代となって、かつてイエスであった人は金星人に転生してアメリカの砂漠に円盤で着陸する。そしてヨハネであった人はアダムスキーという名のアメリカ人に転生して、この金星人と劇的な会見をする（この詳細はアダムスキー全集第一巻「宇宙からの訪問者」に述べてある。このときアダムスキーは相手が二千年前のイエスであったことを確認するが、そのことは右の体験記には述べてない。

アダムスキーは若い頃、一人の友人と一緒に仕事をやっていて、うまくいっていた。しかし内心は求道精神に燃えて、自分が宇宙的な哲学を人々に伝えることに向いているという強いフィーリングがいつも起こっていたが、仕事を捨てる勇気もなかった。

ある日彼が沈黙考していたとき、イ

エスの姿が映像となって出現し、次のように言った。

「私はあなたの仕事がかまくゆくように援助してきました。さあ今度は私のために何をやってくれますか」

そこでアダムスキーは一大決意のもとにお金になる仕事を捨ててしまい、宇宙の法則を伝える方向に大転換した。イエスは多くの転生を通じて地球の向上と地球人の意識の高揚を図るカルマを持っていた。そして二千年前に愛弟子であったヨハネの転生した姿であるアダムスキーの仕事をはひそかに援助して、十字架から離れようとしなかった彼の恩義に報いた。そして俗世での体験を十分に積んだ頃に、再度宇宙の法則の探究をうながしたのである。アダムスキーもかつてイエスであった金星人を援助する使命を帯びていた。この金星人をアダムスキーはオーソンという名で呼んでいる。

以上のとおり、二人の関係は深遠な宇宙的なカルマの法則の具現であり、多くの転生を経て行われてきた。

以上の事柄は別段秘密ではない。アダムスキーは充分な理解力を持つ人々には何度も話していた。しかし公開の席ではけつして語らなかつた。これは宇宙的な事実を神秘主義（心霊）と混同されることを警戒したからである。アダムスキーが透視したイエスの映像は心霊的な幻覚ではなく、宇宙船から放射された放射線によって可視化されたものである。

アダムスキーの宇宙的体験は心霊とは混同しないようにと常に警告していた。

混同するとUFOの分野の真実が大眾から嘲笑されるし、真相の全体が人類に知られなくなつて、宗教的なことにされてしまうからである。

転生の問題は人間にとつて最も重要であるのに、地球人はまだこの知識を持っていない。この問題にはアダムスキーが地球に生まれた理由や、使命を遂行しようとした理由について、真実の意味そのものが含まれている。

甚だ意味深長な情報である。この情報源はきわめて信頼のおける人物なので、以上の内容をアダムスキーが語ったというのは間違いないと思われる。イエスの死体を甕に運ぶ途中、上空から円盤が放射線をあびせて生き返らせたとか、復活後に円盤に乗せられてアメリカの砂漠のデザートセンターへ送られ、そこに住んでいた偉大なインディアンの一族を指導しながら八十歳まで生きたという話はアダムスキーから聞いたことはないと言っているところを見ると、どこかで話がゆがんだのかもしれない。

名高い聖骸布の科学的研究によると、明らかに放射線をあびせた形跡があるので、以前は円盤の放射線が有力視されていたが、これは訂正を要するようだ。推測だが、あの放射線は霧の中で何者かによつて、何かの装置を用いてあびせられたのではないかと思われる。こう考えるほうが合理的だ。

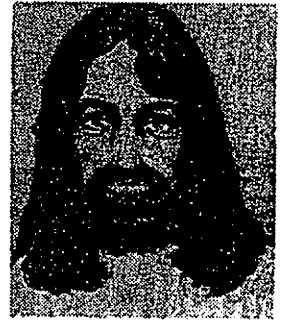
イエスが復活後デザートセンターへ送られなかったとすると、どこへ行つたのか？ おそらくもとの出身惑星へいったん肉体のままで帰つて、充分に体力の増

強を閃った上で、再度地球へ来たのであるが、パレスティナに永住したのではなく、外国へ指導に出かけたのではないかとと思われる。これについて前述の情報源によると、L・テイラー・ハンセンという古代史研究家が書いてイギリスで出版された「彼はアメリカの大地を歩いた」と題する本に、イエスとおぼしき青い目をした白人の指導者について詳述してあるという。

この白人は舟に乗って海を渡り、南北両アメリカを教えながら歩いたが、そのティーチングはアダムスキーの宇宙的哲学と全く同じであった。これはイエスが十字架にかけられたあと、地上に帰ってきた後に起こった出来事であるらしい。ただしこの本の内容はアダムスキーの話とは全く関係はない。筆者はまだこの本を読んではない。

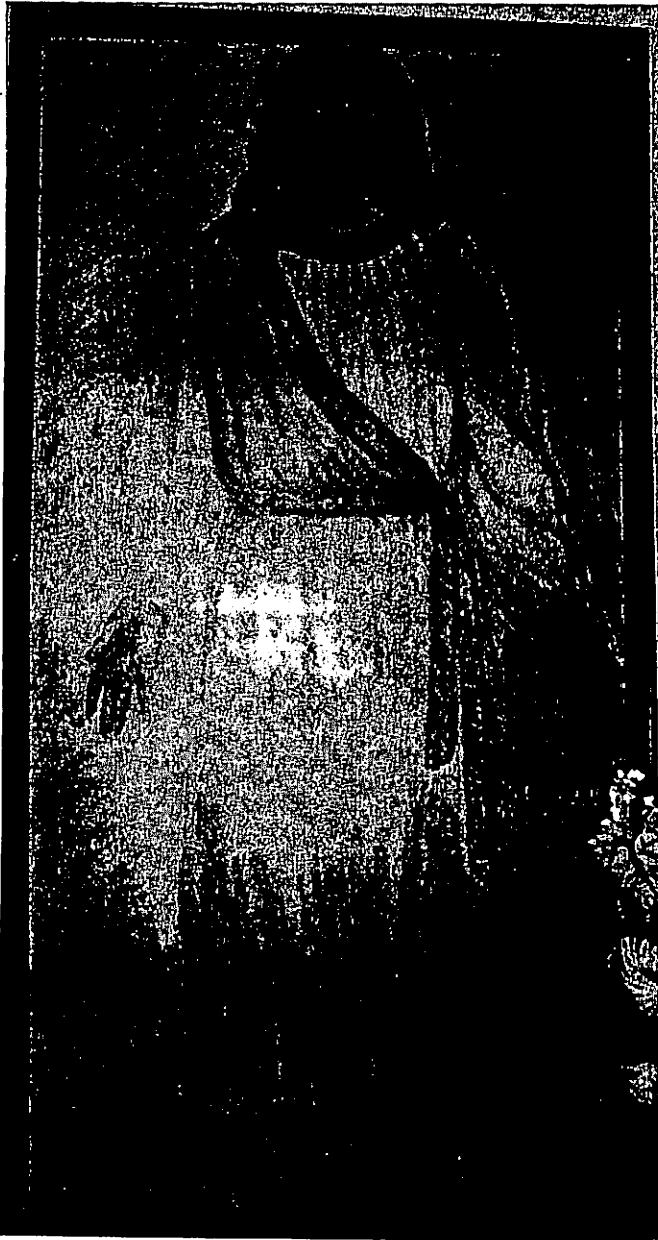
イエスが死んだ直後に円盤が放射線をあびせたかどうか、円盤でデザートセンターへ送られたかどうかは些細な事であって論議するほどのことではない。問題は二千年をへだてた、イエスとアダムスキーをめぐる深遠なカルマと転生の事実をどこまで理解するかにある——これが事実とすればだ。

これにはまだ地球人の理解力を超えた要素がひそんでいると思われるが——もちろん科学的には転生は全然認められていない——こうした問題を信ずる人と信じない人との差も、やはりカルマの差であるのかもしれない。それは科学知識などを超えた別次元の何かであろう。UF O問題はあまりにも深遠だ。



▲イタリア・トリノの左聖堂に保存してある有名な聖骸布の像をもとに、高度解像写真を何枚も使って実物大の粘土模型を作り、多くの学者の意見を参考に復元したイエスの像。イギリスの画家カーティス・フーパー氏が7年かかって制作した。左のアダムスキーが描いたイエスの顔と比較されたい。

◀アダムスキーに現れたイエスの映像を、アダムスキーみずから描いた油絵。この等身大の絵画はメキシコ市在住の弟子であったマリア・クリスティーナ・デ・ルエダ夫人に贈られ、同夫人の大邸宅の特別室に飾られていたが、夫人が死去した際に遺言により棺に入れて焼かれた。この写真は久保田八郎日本GAP会長が1977年8月に同家を訪問して撮影したもの。



MOONGATE

By William L. Brian

ムーンゲート (完)

● ウィリアム・L・ブライアン
久保田八郎訳

〈連載第8回・翻訳連載権独占〉

第14章

現在と未来の 宇宙開発計画



月着陸船の謎

アポロ宇宙船の月面離陸写真類は、月の表面から脱出するためにロケットの推進装置は用いられなかったという証拠を示している。読者は本書の(原書の)写真18に見られるアポロ17号の月着陸船の離陸の模様を伝えたカラーテレビ写真を参照されたい。この写真にはロケットの排気ガスの跡が全然ないのだ!

月が強い引力を持ち、地球に似たかなりの大気を持つという莫大な証拠がこれまでに与えられてきた。この写真に見られる黒い空は、空の部分がおそらくフィルターで落とされたものである。一見すると、空を暗くするのに用いられた暗黒化処理法により、ついでに排気ガスも消してしまっただけと思われるかもしれない。しかし空は暗くされても大気は存在するのである。それゆえに強い引力も存在するから、ロケット類は初めは作動しないだろう。

前記の写真をくわしく調べてみると、

月着陸船の上昇段が照らされているように見える。この輝きは着陸船の輪郭をあらわすもので、明らかに排気ガスのそれではない。しかしこれは着陸船の側面にあつた太陽光の反射なのかもしれない。もし排気ガスが少しでも現れるとすれば照らされた上昇段の下に見られるだろう。

写真19(原書掲載)に見られるアポロ宇宙船の離陸の光景と、前記のアポロ17号とを比較してみよう。赤、青、緑、黄色などの斑点は、上昇段の底で多くの活動が発生していることを示しているように思われる。一つの可能な説明としては、上昇段を降下段に連結していた爆発性ボルトが爆発したということだろう。このために金属の破片や他のクズが船底から吹き飛ばされたのかもしれない。

別な可能性としては、ロケットが単独の推進装置であることを大衆に確信させるために、最初の噴射用燃料を少し燃やしたとも考えられる。筆者は完全な離陸を示す8ミリフィルムを入手したが、最初の噴射はロケットのノズルから出てく

る赤色の羽毛のように見えることに気づいた。しかし上昇段が降下段から切り離されるとすぐに停止した。

写真20は写真19が撮影された直後のアポロ16号の離陸の写真である。ロケットのノズルから出るはずの排気ガスが全然見えない。これらNASA(米航空宇宙局)の写真類を疑おうとする人たちは、排気ガスは真空中では目に見えないのだと主張するだろう。しかし化学的なロケットはカ氏数千度で大量の燃焼物を排出する。この燃焼物やガス類は排気ガス航跡の中に強烈な光を放射し、それがロケットのノズルから長く伸びる。ノズルからの距離が増大するにつれてガスや燃焼物は散り始めるのである。この量の光ならば、しばしば周囲の地域を照らすのに充分なことがあり、最大に強い光は排気ガスの流れ自体の中にある。真空というものは排気ガスの流れから放射される光を除く効果をほとんどもたない。これは排気ガスや他の燃焼物がそれ自体の放射エネルギーまたは光を供給するからである。

とにかく(先に述べたように)分離の際の最初の噴射または燃焼は、上昇中にも燃焼物が見えたはずであるという証拠を示している。その燃焼物が最初に鮮明に見えたからである。

おそらく読者はアポロ11号に先立って新聞や他の文献に掲載された月着陸船の離陸の図解を思い出すだろう。それにはきわめて鮮明な排気ガスの流れがいつもロケットのノズルから出ている光景が描かれていた。要約すると、月着陸船の写

真類やフィルムなどは、ロケットが月面から脱出するために用いられたのではないという証拠を示しているのである。

アポロ宇宙船は反重力装置を用いた?

月着陸船の航空力学的な問題はまだ論じられていないが、これは明らかに航空力学にとつて不幸なことであつた。このことは月面上の真空状態に関係はないとNASAは強調している。月には濃密な大気があるという証拠は出てきたので、月着陸船が高速に達すると航空力学的に不安定になるだろう。このことは速度が危険なスピードにならないように保たれたにちがいないことを意味している。低速はロケットでは有効に行えない。スピードを落とすと、必要な燃料は天文学的な量になるからである。

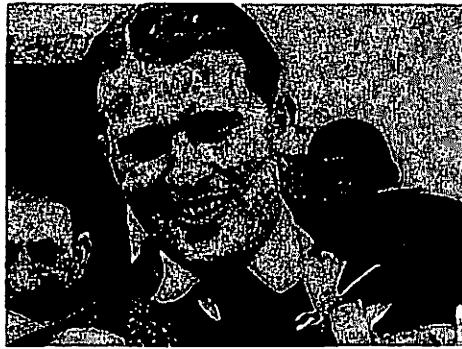
また降下中と上昇中に宇宙飛行士たちが立つていたというのも意味深長だ。おそらく彼らは天井に取り付けた安全ベルトで適当な位置に保持されていたと思われる。しかしそれでさえも、この種の装置をつけた飛行士はかなりの減速や加速に耐えられないだろう。このことは加速や速度は低く抑えられたことや、ロケット燃料を有効に使用するために最悪な状態が生じたことを意味するのである。

宇宙飛行士を月面に着陸させたり離陸させたりするのに、NASAは実際にどんな方法を用いたのだろうか?

巨大なサターン打ち上げロケット(訳注)アポロ司令船、機械船、月着陸船な

どを運んだ大ロケット。三段から成る。全装飾の高さは一一メートル、打ち上げ重量は二、九一三トン、F—一第一段エンジンの推力は三、四七〇トン）の製作計画は、月の強い引力の発見に先立って間違いない製図板上にあった。ヴェルナー・フォン・ブラウン（訳注）もドイツのロケット開発科学者。第二次大戦中、彼が設計した長距離ロケットV2号はオランダからイギリス本土攻撃に使用され、イギリス人を恐怖させた。このロケットが発展して今日の弾道ロケット誘導弾や人工衛星打ち上げ用ロケットが作られるようになった。ドイツの敗戦後、米軍に捕らえられてアメリカへ送られ、米陸軍の長距離ロケットの研究を行い、六〇年以後はNASAに属してアポロ計画に偉大な貢献をした。七七年に六十五歳で没）は、NASAが設立されるよりずっと前にこのようなロケットを心に描いていた。実際このロケットは大きいので、月へ化学ロケットを用いた着陸船を送り込むには少なくとも七倍も大きなも

●月へアポロ宇宙船を運んだサターンVロケットの打ち上げの瞬間。



●米軍に逮捕されたときのフォン・ブラウン

が必要となったことだろう。反重力装置が開発されたあとは、サターンロケットも必要なくなるだろう。しかし大企業や軍部の勢力が宇宙開発計画に深くかかわっている。このプロジェクトが続いても軍部は新しい発見事を秘密にし続けるだろうし、大企業によって数兆ドルの金

がつくられて軍部の秘密研究プロジェクトに使われるだろう。かつて宇宙飛行士たちは大気圏外に飛び出たが、そのときは進歩した反重力装置が秘密裡に用いられたのかもしれないし、大衆はメクラにされている可能性がある。

軍部はアポロ計画以前に月へ人間を送っていた？

軍部は金のかかる防衛予算の誘因や要求を出し、大企業はその支出から利益にあずかろうとする。米政府はこうした企業のあやつり人形と化しているのかもしれない。本章で述べたようなエネルギー発生装置が一夜にしてエネルギー危機を消滅させ得ることを考えてみれば、読者にとつてこのことは明白となるはずだ。実際、エネルギー危機は世界のエネルギー企業の利益のためにつくり出されているのだ。

NASAがロケットだけでは人間を月面に着陸させるのに充分でないことを発見したとき、資金は間違いない重力研究

や関連プロジェクトに向けられた。軍部はたぶんすでにサール効果やビーフェルトIIブラウン効果を一九五〇年代初期に研究していたのだろう。そして一九五〇年代なかばまでには、この装置を完成させていたかもしれない。加うるに重力を誘起する放射線を生じさせる装置が一九六〇年までに開発されたとも思われる。確実に可能性があるのは、米軍部はアポロ11号が月に着陸するよりもはるか以前に月へ人間を送っていたということである！

アポロ宇宙船に用いられたこの新開発の浮揚装置は、必ずしも宇宙船が百パーセントこの装置によって作動しコントロールされたというほどに使用されたのではない。おそらくそれはブレーキ、軟着陸、上昇時に主推進源として用いられたにすぎないだろう。姿勢制御は依然として小型のスラスターでやったのかもしれない。この新しい反重力装置も最少限度に使用すれば、秘密を維持するのははるかに容易である。

この浮揚装置にパワーを送るにはやはり電気エネルギーが必要である。サール効果は浮揚装置を始動させるのにわずかな電気エネルギーを必要としたにすぎない。あとは周囲の空間からのエネルギーがそれを支えるのである。しかし重力誘起放射線発生器は絶えず電源を必要とするだろう。とにかくアポロ宇宙船にはサール効果発生機、ビーフェルトIIブラウン効果装置、重力誘起放射線発生器、その他の秘密な装置の種々を組み合わせが応用されたにちがいない。

ソ連も反重力装置を開発したか

NASAや米空軍がUFOに関して沈黙を守ってきたのは、彼らの反重力装置の開発と利用のためなのかもしれない。空軍が実在一九五〇年代の初期からUFO研究に多大の時間と努力をついやしたことはよく知られている。彼らがその経過においてUFOに関して多くの事を学ばなかったと考えるのは素朴であろう。彼らのUFOに関する完全な黙秘策は、大衆から隠さねばならぬ物を持っていることを示している。一九四七年にニューメキシコ州ロスウェルで墜落したUFOに関する政府の隠蔽の詳細な記事を読むには、チャールズ・パーリッツとウィリアム・L・ムーアの「ロスウェル事件」と題する本を強くすすめたい。一九五〇年代と六〇年代に目撃されたUFOの多くは米空軍が所有していたものであるという可能性は充分にある！

宇宙開発競争におけるソ連の役割は控え目に言ってもきわめて謎だらけであった。ソ連は月にむかつてアメリカを出し抜こうとしたときに、この競争から手を引いてしまった。それともソ連はやったのか？ ソ連はアメリカよりも前に月探査機を月に軟着陸させている。これは反重力が応用されたか、それとも探査機をゆっくり降下させるのに月の大気を利用されたかのいずれかを意味する。月の大気を利用されたとすれば、地球の大気圏突入時にカプセルの表面に用いられる物に似た熱遮断物が用いられたであろう。

一九七〇年九月二十日、ソ連はルナ16号を軟着陸させた。これは月の豊稜の海から採取した土のサンプルを持って地球へ帰還した遠隔操作の月探査機である。この業績はアポロの月着陸に比較して無意味と思われたが、この装置は月の強い引力の中で反重力推進システムを必要としたかもしれない。アメリカのサーベヤ一探査機は月の強い引力中で軟着陸するほどの燃料を持たなかったため、一九六〇年代なかばには米ソ両国によって反重力装置が月探査機に用いられたと思われる。

ソ連は完全な秘密裡に月へ人間を着陸させてつれ戻すのに反重力装置を用いたかもしれない。月には強い表面引力があることをソ連が一九五九年に知ったあと、ロケットだけで成功するのは不可能なことがわかったのだ。そこで彼らはアメリカに世界向けのショーを演じさせておいて、反重力に注意をそそいだのだろう。限られたロケットによる宇宙探検計画を維持し続けることによつて、彼らの反重力による探検の試みの秘密も維持できたのだろう。

「ソ連はふたたび宇宙支配を断行する」と題する記事が、一九七九年九月三十日付のオレゴン紙に掲載されたことがある。この記事の筆者はかつてアポロ10号の宇宙飛行士トーマス・P・スタフォード陸軍中将が議会へ送ったメッセージを引用している。中将は当時研究開発チームの副主任であった。

スタフォードは、ソ連は月到着競争の逆行から元へもどろうとし、国力のシル



●スタフォード

シとして意欲的に努力を進めていると信じていた。ソ連は宇宙ステーション、コロニー、軌道を回る工場群、さらに別な惑星へ人間を送る方向にまで研究開発をやっていると思われる。

一九八〇年十月十一日に、二人の宇宙飛行士がサリユート6号宇宙ステーションに乗って、百八十五日すなわち六カ月以上の飛行記録を樹立してから地球へ帰還した。前記の引用記事によると、スタフォードはソ連が有人軍用宇宙船の可能性を開発しつつあると信じていた。

チャールズ・S・シュエルドン博士もこの記事で出てくる。彼はソ連が全く新しい輸送宇宙船を用いた始めたかもしれないと言っている。加うるに彼はソ連が巨大な宇宙ステーションと、別な惑星を探検するために有人惑星間探検船を建造するだろうと予想していた。しかしシュエルドンはソ連が用いると思われる推進装置を説明していない。従来のロケットを用いて引力の強い惑星へ宇宙飛行士を着陸させるのは、どこの国にとつても経済的に大変である。したがってシュエルドンの主張が本当とすれば、ソ連も反重力装置を

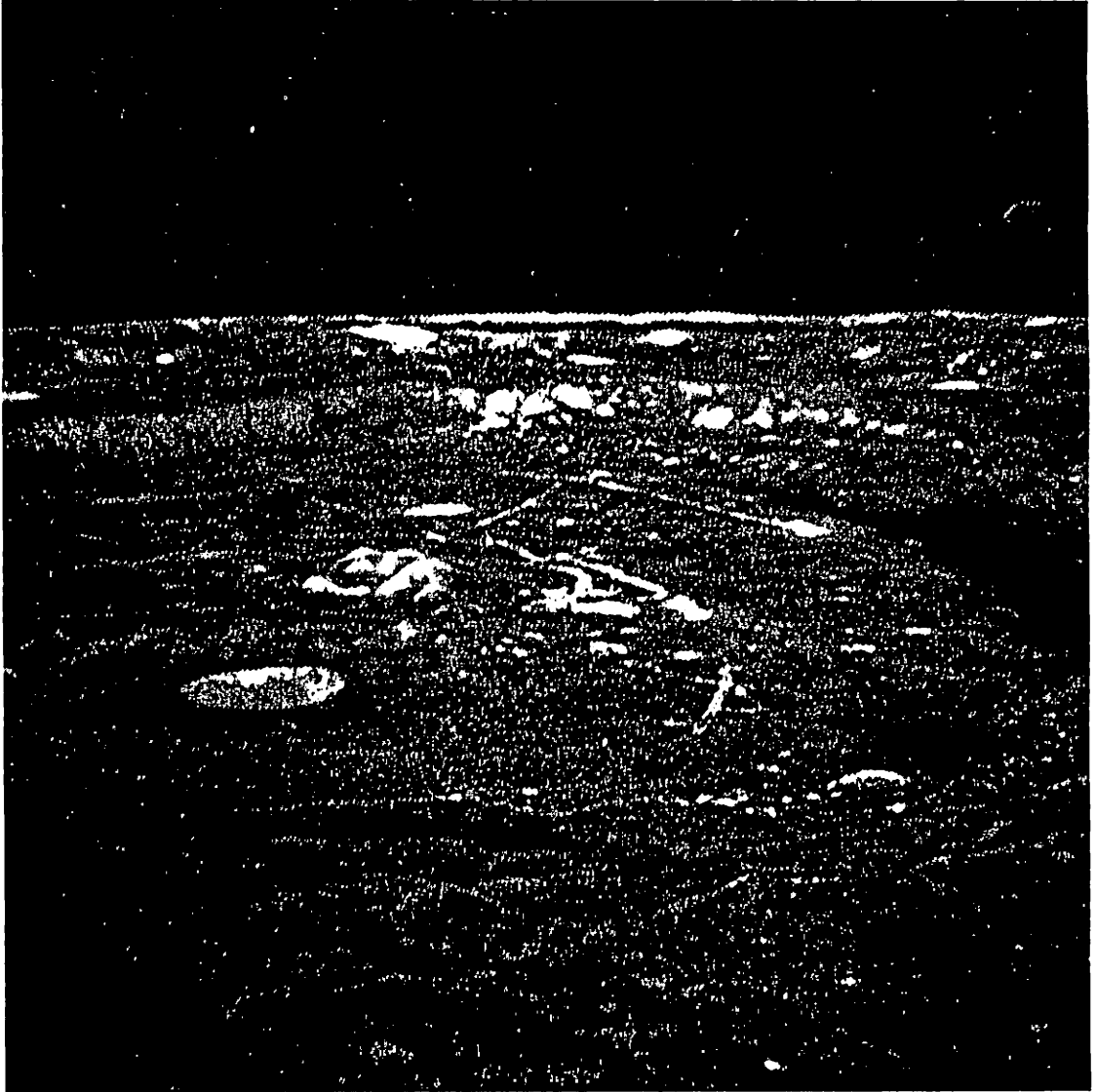
持っているかもしれない。

読者は、軍部にとつて利用できる最新技術は、一般化されるよりも常に数年先を行つておくことを思い出すだろう。ソ連はアメリカよりも浮揚装置の開発や他の惑星の探査でおそらく先行してはいないだろう。十中八九はアメリカの有人宇宙探検はアポロ飛行後もけつて中止されてはいない。ソ連が一つの口実としてサリユート6号宇宙ステーションを用いながら六カ月間にわたり、月や他の惑星に宇宙飛行士を送るかもしれないと考えるのは興味ある可能性である。そうだとすればアメリカは何をやらうとするだろう？ スペースシャトル計画は軍部の宇宙開発作戦のためのもう一つのオトリなのだろうか？

驚異的発見事の隠蔽また隠蔽

NASAの隠蔽の結果、NASAやオーストックスの科学者連によつて一般へ公開された別な惑星に関するあらゆる発見事を、疑惑の目で見ることがある。月の強い引力により、惑星の引力と大気に関する概念やその他の宇宙論的概念にたいして徹底的な修正が要求されている。

以上の考え方や莫大な証拠は、太陽系内の多くの惑星や衛星にはわれわれを凌駕した技術を持つ知的な人々が住んでいるかもしれないことを示唆している。そうだとすれば、宇宙空間におけるアメリカやソ連の作戦はこの人々によつて制限され、一定の範囲に限定されるかもしれない。われわれはこの人々が超大国の進



●アポロ宇宙船が撮影した月の裏側。中央左寄りに人工建造物らしき物と白いスジが数条見える。

出を阻止してくれることを望みたい。なぜなら軍事目的で宇宙空間を利用するのは結果的にわれわれの破滅に至るからである。

本書に出された証換類は、エネルギーに関連した重大な発見事のすさまじい隠蔽が行われてきたことを示している。NASAのこの隠蔽はその小部分にすぎない。この隠蔽の理由は簡単に述べたけれども、多数の新しい発見事は驚異的である。もしアメリカ政府がこの発見事の公式声明を出したら何が起こるかを考えたい。引力の性質に関するありふれた知識とそれをコントロールする金のかからぬ方法こそ輸送に大変革をもたらすだろう。そして実際に無限のエネルギーを持つ新しい世界が混沌の中から出現するだろう。

訳者付記 二年間八回にわたって連載した「ムーンゲート」も本号でやっと完結した。ご愛読頂いた読者に謝深する次第。原著者の驚くべき証換類と卓越した推理により月に関して驚異的な真相を暴露した本番はUFO問題にも言及し、地球以外の惑星群に偉大な人類が存在することを示唆している。原著者ブライアン氏が宇宙問題のバイオニアートとして輝かしい名を残すことを期待したい。本誌に無償で翻訳連載権を与えられた同氏に心から感謝する次第である。



アダムスキー問題の真実性と 宇宙哲学実践法

久保田 八郎

〈日本GAP会長〉

今年には日本GAP創立二十五周年ということになって、それなりの行事が各地で展開していますが、実際に私がジョージ・アダムスキーと文通を始めたのが昭和二十八年で、世界GAP参加リーダ名簿に私の名が掲載されたのが昭和三十四年十月ですから、アダムスキー問題の研究自体は三十年以上にわたっています。

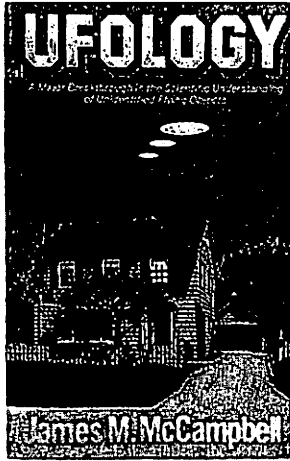
その間を回想しますと、さまざまな出来事の連続で、身辺の変化、不思議な事件、奇怪なトラブルなどを公表すれば、まさに波瀾万丈の人生ではないかと思われましょうが、ナーニたいしたことではありません。根が徹底した楽天主義者の私ですから、心底からの苦難という想念を起すことはなく、むしろ苦境に立てば立つほど、それをレッスンとみなして逆に強烈な信念を起していましたから、その信念の力で切り抜いてきたと一応首肯できるでしょう。楽天的または良い意味での奮勇の信念が私の身上であるとも言えますが、同じ信念でも宇宙哲学を基盤にして、もう少し次元の高い信念を応用するほうがよろしく、宇宙力を用いるとよいのです。この点はあとで述べましょう。

**NASAの科学者マキャ
ベルはアダムスキーを支持
した**

アダムスキー問題が世界で喧伝されて以来、年久しくなります。正直に言って現在はかなり下火になってしまい、世界GAP網もかつての十数カ国から現在は数カ国に激減して、どうみても不利な状態になっています。

● ジョージ・アダムスキー





●「ユーフォロジー」の表紙

しかし真実はいつか必ず脚光を浴びるのでして、イエスの説いた宇宙の法則も三百年後にはローマのコンスタンティヌス一世によって国教に定められたのですから、現在のようにマス・コミュニケーションの発達した時代ならば、アダムスキーの宇宙的体験や哲学の真実性が一般に認められるようになるまでには百年とかららないでしょう。もつと早いかもしれません。しかしそれは来世紀と思いません。

ということとはアダムスキーの主張した宇宙的体験なるものは真実であつたということを前提としています。一部の否定論者が言うような虚偽の発表ではないのです。そしてそれなりの多くの真付けがあるのです。

いまその真付けのすべてを挙げれば膨大なものになりますから省略しますが、ここにひとつ重要な文献がありますので紹介しましょう。

さほど新しい書物でもありませんが、一九七六年にアメリカで発行されたUFOの専門書で「ユーフォロジー」という

本があります。著者のジョー・マキヤンベルという人はカリフォルニア州立大学のバークレー校を出た人で、物理学と機械工学を専攻し、その後大学院で物理学と数学を研究しています。その後原子炉の設計に関係してから、いわゆるハイテクの大規模な各種プロジェクトの設計管理にたずさわり、また名声を高めさせた業績のなかには国の各種研究センターの拡張計画、諸外国の経済開発計画、NASA（米航空宇宙局）のテスト施設類、原子力発電所開発計画などがあります。

「アメリカ科学人名簿」に加えられる「原子紳士録」や「アメリカ紳士録」にも名をつらねているという一流の科学者です。また全米科学促進協会と全米原子核協会の会員でもあり、北部カリフォルニアの議長にも選出されたという大物です。

不思議なベルトをしめた異星人

この人の「UFOLOGY(UFO学)」という英文原書によりすると、世界のUFO問題やコンタクト事件が科学的に分析されており、異星人の服装についても各種の特徴が列記してありますが、同書一三〇頁には「ベルト」という項目があつて、UFOから出てきた乗員が腰に着用していたベルト類の詳細が述べてあります。

それによりすると、イタリアの一コンタクティーが、まばゆいばかりに輝くUFOの近くにいた二人の男を見たとき、その二人が断続的に黄・緑・青の色光を

四カ月後に同じ人がまたも光るベルトを着用した別な二人の人物を見たことありま

す。ベネズエラの身長二メートルの二人の異星人が着けていたベルトは光線を放ち、まずそれで照らしてから物体にさわったと述べています。

次にメキシコの興味深いコンタクト事件に言及していますが、それは次のとおりです。

「一九五三年のある雨の後、一台のタクシーがメインハイウェイでエンストした。運転手は修理が出来なかつたので、二人の乗客とともに車内に座つたまま夜明けかした。二人の客は幅の広い、輝くベルトをしめていた。ベルトは連続して穴があいていた。

最初運転手はこの客は中南米のどこかの国から来たパイロットかと思つたが、客の一人が自分たちは遠い惑星から来た者だとスペイン語で話した。

夜明けになつて三人は沼地を横切つて一・五キロほど離れた一機の乗物の所まで歩いて行つた。このとき運転手は泥の中に深くはまり込んだが、異星人たちの両脚はきれいのままだった。彼らの脚が泥沼に入ったとき、ベルトが輝いて、まるで目に見えない力で跳ねとばされるかのように泥が飛び散つたという。

異星人たちは首のまわりに金属のカラーをつけており、背中には黒く輝く小さな箱を背負つていた。この箱はどうやらベルトと関係があるらしい。あの不可視の力をもつと強くすれば、異星人たちは

まりベルトは本人たちを沼の中に沈まなようにする反重力的な装置の一部分で、同時に泥をはねとばしたのだ」

マキヤンベルは他の惑星の真相を知つていた。

ここで著者のマキヤンベルは、アダムスキーが一九五二年十一月二十日、カリフォルニア州デザートセンター砂漠で会見した金星人の服装の描写を次のように引用しています。

「相手の衣服は上下統きの服で……(中略)相手の服がどのようにして作られたのか、いまだに私には謎である」

(右の部分はアダムスキー全集第一巻、「宇宙からの訪問者」七四〜七五頁に掲載されていますから参照して下さい)

続いてマキヤンベルは述べています。

「目撃者のジョージ・アダムスキーは二十年間、世の中で全く語られていない多くの出来事が存在することを心底から期待していたので、彼は個人的な目撃を正確に述べたか、または現代で最高の先覚者の一人であつたかのどちらかである」

この部分については昨年この原書を私に贈ってくれたカリフォルニア州コンコードの同志であるダニエル・ロス氏が彼のニューズレターで次のように述べています。

「NASAの科学者のなかにはUFOを研究し、自分なりの調査で研究を広げたと称している人たちがいる。ジェームズ・マキヤンベルもそのような科学者の一人だつた。彼は一九七三年に「ユーフォ

ロジック」という番物を書いたが、その中には科学機関などにおける自身の接触を通じて入手した漏洩や内部情報にもとづいた記事が沢山ある。彼は金星、火星、月などに関して未公表の断言できる発見事を明らかによく知っていたのである。

(中略) この科学者の情報源は「空飛ぶ円盤は着陸した」(邦訳アダムスキー全集第一巻「宇宙からの訪問者」中の第一部に掲載)であり、その中でアダムスキーは一九五二年に金星から来た人との会見について述べている。

金星や火星それに月でさえも生命は絶対には存在しないというNASAの公式声明がかりに絶対的に真実であるとしても、なぜマキャンベルは手をわずらわしてこの男(アダムスキー)を弁護しようとするのか?

理由はきわめて簡単である。大衆はこの惑星群のことを何一つ明確に知らないからだ。発見された証提類の多くは大衆の古い天文学上の学説や既製概念に合わせて解釈されるのである。公表される、大気圏外の発見物”のなかには完全に偽造された情報もあるのだ。(中略)大衆が真相を伝えられていないことを知っているマキャンベルのような科学者は多数いるのである」(以上のロス氏の論説は日本GAP発行英文版「UFOコンタクト」第一号に掲載)

米ソは重大秘密を隠している

以上でおわかりのように、NASAに
関係した科学者でアダムスキーを支持し

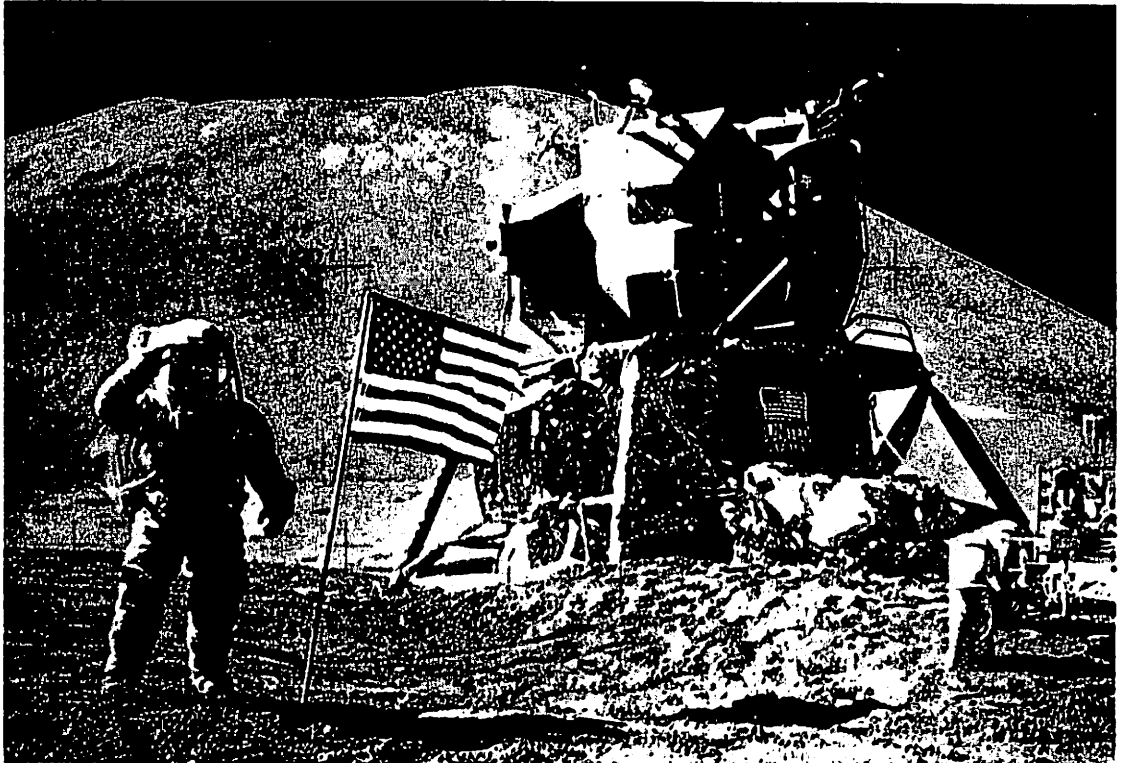
ている人は存在するわけで、他にも多くいると思われませんが、問題は別な惑星に関するNASAの公式発表なるものが、ほとんど事実をゆがめたものであるという点にあるようです。金星が七氏四八〇度の焦熱地獄という記述は大抵の天文学書に見られるもので、これを最初に伝えたのは一九七〇年十二月十五日に金星に着陸したソ連の金星七号からの報告ということになっており、これを世界中の天文学者が信じているわけです。

いったい最高首脳がちよつとカゼをひいて寝込んだぐらいのことでも秘密にしたがるソ連が、膨大な国費をつぎ込んで打ち上げた探査機による宇宙探検の成果をまともに発表するでしょうか。これは常識で考えてわかることです。アメリカも同様でしょう。

アポロ宇宙飛行士のすごい発見

探査機類の調査により太陽系の別な惑星に知的生物は一切存在しないことが判明した。アダムスキーの主張はすべてインチキだったと、いとも簡単に誇らしげにのたまう反対論者は幸せですなアと皮肉でなしに言いたいのは、月面に関する異常な人工建造物をアポロ宇宙飛行士たちが報告したすごい記録があるからで、こうした記録類を調べれば調べるほど、何が何だかわからなくなって、ひどく戸惑うことになるからです。つまり幸せにならうと思えば、こんな複雑怪奇な問題に頭を突っ込まず、真相を全く知らないほうがよいということになるのです。

●月面に立って米国旗に敬礼するアーウィン宇宙飛行士。



一九七一年八月一日、アポロ十五号で月面に降り立ったジェームズ・アールウィン宇宙飛行士は、長大な「トトラック」を発見したと管制センターに伝えていました。この構造物はハドレー山上まで続き、美しく建てられたもので、幅がすべて一定し、頂上から底まで高さがそろっており、「こんな見事な構造物は、いままで見ることがない」と感歎の声を放っていました。スコット飛行士も「こりやすこい光景だ」と言っているのですから、言語に絶する驚異的な建造物を見たことは確かです。

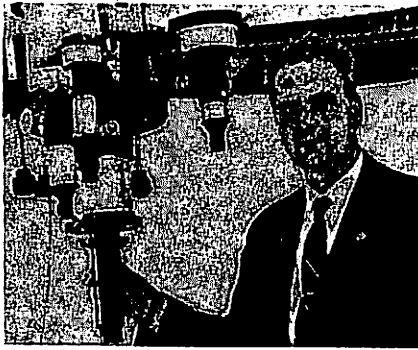
アダムスキーは月面上に異星人が建設したハイウェーの写真があると書いていますが（アダムスキー全集第3巻「UFOとアダムスキー」一一九頁、それによると、空軍将校連がアダムスキーの持っていた月面写真を拡大鏡で調べながら、道路やハイウェーなどがあることを指摘し始めたが、それらの道路は完全な直線で、数百マイルも続いていて、山脈中に姿を消したのもあり、結局山中にトンネルがあることがわかったと述べています。「トトラック」というのは通路、軌道、線路というような意味があるので、宇宙飛行士の見た建造物は一種の高架道路のようなものでしょう。アポロ17号のシュミット飛行士も「トトラック（複数）が見えるぞ、クレーターの壁まで続いている」と興奮して叫んでいます。

以上の宇宙飛行士の月面における人工建造物目撃事件は、アダムスキーがはるかに以前に著書で述べた、月面上にスペース・ピール（他の惑星の人々）の都市

や建造物が存在するという説を完全に裏付けるものです。

バトリック・ムーアのアダムスキー対談と、I氏の月面写真研究の成果

ところが、アポロ宇宙船や飛行士が月面で撮影した写真類を約千五百枚も入手して、月面の異常現象の大研究をやっている人が日本にいます。名古屋に住むI氏がそれで、私は数年前からこの方より連絡を受けており、研究の完成を楽しみにしていますが、最近の連絡によると論文執筆は七割方進展したということですが、この方の話によりますと、イギリスの有名な天文学者バトリック・ムーアの書いた有名な専門書「月、形態と観察（地人書館）の中に、ムーアの次のような記述があるのに注目したそうです。「そのほかにも空飛ぶ円盤の問題がある。



●バトリック・ムーア

私は、この宇宙の「土器」のことを議論しようとは思わないが、一九五八年にBBCの「パノラマ」というテレビ番組のなかで、円盤に関する古典的な本共著者であるジョージ・アダムスキー氏にインタビューした時のことだけは、どうしても書いておきたい。

アダムスキー氏は、私に、自分は月より遠い所まで行ったことがあり、犬のような動物が月の真側を走りまわっているのを見たことがあると話された

ムーアのこの記述に刺激を受けたI氏は、NASAの月面写真を徹底的に調査しているうちにアツと驚いたのです。なんとコペルニクス・クレーターのセントラル・ピーク（中岳）のふもとに一匹の犬がいるのを発見したというのです。犬とすればずいぶん小さな動物物ですから、いくらなんでもそんなものが写真中に見えるはずはないと思って聞き返したら、犬に間違いないという確信に満ちた返事がかえってきました。犬どころか建築物なども見えるということですが、氏がどのような分析をされたのか知りませんが、特殊な科学的な方法を応用しているということでした。

アダムスキーが金星の母船に乗り込んで月に接近し、超強力な望遠鏡でスクリーンに映し出される月を観察していたときに、四足の小動物が画面を横切るのが見えた。「宇宙からの訪問者」で述べていますが、バトリック・ムーアもロンドンにおけるアダムスキーとのテレビ番組でアダムスキーがこの件に言及したのを彼の著書に記したわけです。ムーアが

「⁹ 畢生の仕事ともいべき大著にわざわざ書き留めるくらいですから、よほど強烈な印象を受けたのでしよう。ということではムーアもアダムスキーの主張を真実にもとづくものと感じていたからだと思われまます。くだらないことならば一節を削くほどの労をとらなかつたでしょう。」

地球外惑星群の実態

紙数の都合であまり詳細に述べられませんが、とにかくアダムスキーが大気圏外宇宙、特に太陽系の地球以外の各惑星の実態について真実そのものを語っていたことは、まず間違いないと認められます。その実態の主要点を列挙すれば次のとおりです。

(1) われわれの太陽系は現在までに九個の惑星が公認されているが、冥王星の外側に未発見の惑星が三個あり、全部で十二個になる。

(2) この十二個の惑星のすべてに人間が居住して偉大な文明を築いているが、地球だけは最低のレベルにある。

(3) いわゆるUFO（未確認飛行物体）といわれるものの大部分は、近隣の惑星群から来る宇宙船であり、これに高度な知性と精神を持つ異星人が乗っている。

(4) この宇宙船は金属で出来た物体であり、人工的な重力場を持ち、電磁力を応用した推進エンジンをそなえている。したがって地球人の想像を絶した離れ業を演じることができ、光速に近いスピードで進行することも可能である。

(5) この宇宙船の型や大きさはさまざま

が、大別して大型の葉巻型母船(輸送船)と、小型の二三人乗りスカウト・シップ(観測機)に分かれる。後者は大体に円盤型で、上半分がドーム(丸屋根)、下半分がスカート状になっている場合が多い。大母船からは直径数十センチから一メートル程度の超小型観測機が発射されて地上を観測する。

(6)これらの宇宙船は地球の科学をはるかに凌駕した高度な科学的建造物であつて、金属製の物体であり、四次元世界から来るのでもなければ、地球に接近して可視化する靈的存在でもない。

(7)異星人たちも地球人と同様の骨、肉、血液などから成る生きた肉体を持つ人間であつて、靈人ではない。知能が高度に発達し、テレパシー、透視力等のいわゆる超能力を駆使する。彼らは万物一体の法則のもとに調和して生き、万物を生かす。宇宙の意識(宇宙の英知またはパワーストとも言えるもの)をよく自覚し、肉体の属性であるマインド(心)をこの宇宙の意識と一体化させているので、神に近い心境に達している。したがって彼らの惑星は高度に平和な社会であり、貧困、病氣、警察、軍隊などは一切存在しない。科学と精神の両面が超高度に発達している。

(8)彼らは大昔から宇宙船で地球へ来訪し、ひそかに観察して救援活動を続けている。彼らのなかには地球上でひそかに生活し、地球人にまじつて働いている人もあるが、表面上(体型、顔つき、服装など)は地球人と全く見分けがつかないために、一般地球人から気づかれていない。主として地球の科学研究機関、医療機関などに地球人名を名乗つて働きながら、地球の科学の発達を援助しているが、タクシードライバー、掃除人その他の職業について働いている人もある。これは地球人の実態を徹底的に知るためである。

(9)彼ら異星人は特に地球上に発生する自然の変動を観察したり、核兵器の発達にともなう全面核戦争の防止に主体をおいている。これはいずれも他の惑星に悪影響をおよぼすからである。

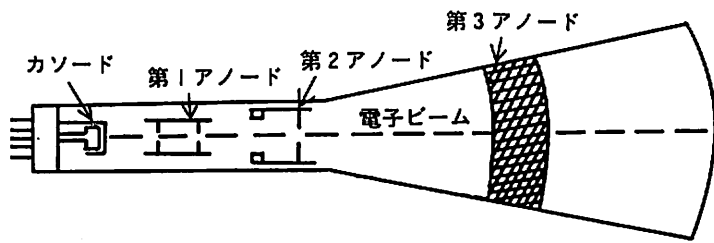
超遠距離の惑星に太陽エネルギーが届く理由

太陽の放射エネルギーは逆二乗の法則(距離の二乗に反比例して弱まってゆく)により、太陽からの平均距離が五九、〇〇〇億キロメートルもある冥王星などで太陽の熱などが得られるはずはなく、極寒の世界なので生物が住めるわけではない」といふのが従来の常識であつたが、これについてアダムスキーはテレビのブラウン管の構造にたとえて説明している。

それによると、ブラウン管のグリッドとアノード(陽極)の正の高電圧はカソード(陰極)から出る電子を引き寄せる。すると電子は高速度でアノード(陽極)の方へ引っぱられるが、しかしアノードの特殊な構造のために、ほとんどの電子はこれを通り抜けて次のアノードの方へ直進する。こうして理論上では種々の異なるアノードと正の高電圧を用いることによつて電子群を非常に遠距離にまで到達させ得るのである。

太陽の放射エネルギーもこれと似てい

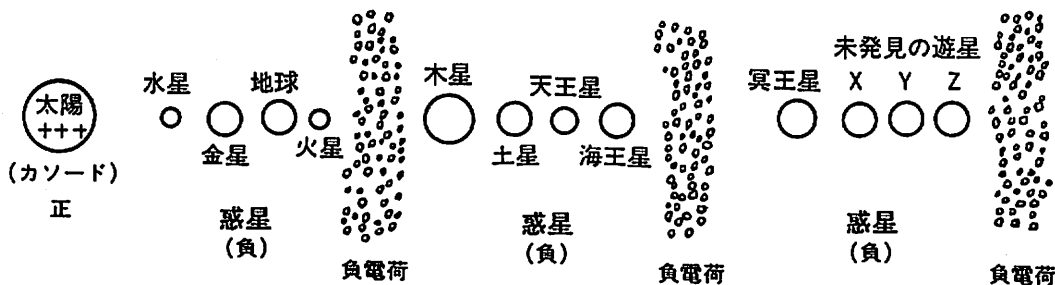
ブラウン管と太陽系との比較図



第1アステロイド帯 (第1アノード)

第2アステロイド帯 (第2アノード)

第3アステロイド帯 (第3アノード)



る。プラウン管とは逆に太陽系の中心部を取り巻いている第一アステロイド帯の負の電荷が太陽から来る正の微粒子をすさまじい勢いで吸引して加速する。このアステロイド帯はグリッドの役目をするもので、微粒子はこれを通過して海王星と冥王星のあいだにある第二アステロイド帯に引き寄せられ、同じ過程をくり返す。こうして冥王星や三個の未発見の惑星までも、太陽の放射エネルギーによる普通の光と熱が与えられるのである。

転生の問題

(11) 高度に発達した異星人は肉体のままで宇宙船に乗って地球へ来るが、地球救援の目的で来るポランティアーのなかには地球で転生する(生まれ変わる)人もある。二千年前に偉大な精神的指導者としてパレステイナで活躍したナザレのイエスもその一人であった。彼は金星から来た人で、地球で転生して肉体は地球人のままで生涯をすごした。彼の弟子の十二使徒もイエスを助けるために別な惑星から地球へ転生してきた人々である。

その他にも過去の歴史で偉大な足跡を残した科学者や思想家のなかには、別な惑星から転生してきた人が多い。そして一生を終えてからふたたび元の惑星へ転生して帰ってゆくのである。

また一般地球人でも、精神的に高度なレッスンを学び、宇宙の法則のもとに生きようとする段階に達した人は、生涯を終えてから地球上で転生しないで別な高度な惑星へ転生してゆく。これは一種の

進歩である。そうでない人、つまり宇宙の法則に全く気づかないで、皮相的な物質のみにとらわれて物欲だけで生きている人は、同じレベルのレッスンをくり返し学ぶ必要があるために、地球上の同じような環境に生まれ変わることをくり返す。

心霊問題

(12) 人間には靈魂というよりもむしろ宇宙的な実体が人体に宿って人間を生かしている。この実体をアダムスキーは「宇宙の意識」と呼んでいる。人体が死んで転生するときは、実体であるこの「宇宙の意識」が、別な場所の妊婦から生まれ出ようとする赤ん坊の体内に瞬間的に移行する。その移行に要する時間は平均三秒間である。したがって空間のどこかに存在するといわれている靈界なるものは実在しないし、死者の靈なるものも存在しない。死者の靈が靈媒といわれる人(婦人に多い)にかかつて、あの世からメッセージを伝えるという、いわゆる靈界通信なるものは、実際には靈媒の体内の細胞のどれかから発せられる印象なのである。その細胞はかつて死者の体内に存在していた原子を含んでいるかもしれない。その原子は死者が生前に放った想念波動を帯びていて、その波動が細胞から放たれ、靈媒の体内で脳を通じて増幅される。あるいは死者が生前に放った外界の想念波動を靈媒がキャッチする場合もある。それでいかにも死者の靈が靈媒に乗り移って語るように見えるのである。高級靈

や守護靈なども存在しない。

異星人の長寿とテレパシー能力

(13) 別な惑星の高度に発達した人類は、地球式に換算して一生涯で平均数百年間生きるが、これは彼らの高度な想念が肉体に影響を及ぼして、いつまでも若々しい健康体を保つからである。病気になるいので病院や医師は存在しない。肉体に何らかの異常が起これば特殊な治療器で自分で治してしまう。

(14) 異星人はテレパシーの能力が発達しており、言語は一惑星につき一種類の言語が存在するけれども、彼ら同士は口でしゃべることはあまりなく、大体に無言のまままでテレパシーにより会話を行う。これは声を出してしゃべると肉体のエネルギーを消費するからである。

世界に例のないアダムスキー全集

別な惑星に関してアダムスキーが伝えた実態は以上の他に沢山ありますが、詳細はアダムスキー全集(全七巻。文久書林発行)に述べてありますから、それをお読み下さい。

この全集は第一巻「宇宙からの訪問者」が主体をなし、続いて第二巻「UFO問題の真相」で、先に述べた太陽系とプラウン管との比較、UFO(宇宙船)の推進理論などがおもに述べてあり、第三巻「UFOとアダムスキー」では、彼が大母船に乗せられて金星へ行き、そこでかつて地球上で彼の妻であったメリーが金

星人の少女として転生している姿を見て、彼女と劇的な会話をかわす場面が描写されている「金星旅行記」と、壮麗きわまらない土星の光景を述べた「土星旅行記」その他が収録されています。

第四巻からは哲学的な分野に入り、四巻が「宇宙哲学」、第五巻「生命の科学」、第七巻「アダムスキー論説集」となっています。

この邦訳版全集は世界に例のないもので、アダムスキーの母国であるアメリカはおろか英語圏のいかなる国でも全集のかたちで出版されたことはなく、彼の著作の個々の単行本でさえも他国ではかなり影をひそめているのに、日本だけがこれが刊行されて広く読まれているというのは一種不思議な気がします。

テレパシクな日本民族

そういえば米カリフォルニア州でアダムスキーの単独支持活動を続けているダニエル・ロス氏によりますと、アダムスキーのいわゆる宇宙問題について最も寛大な国民は日本人とメキシコ人だけだということ、ずっとむかしアダムスキーが講演旅行でニュージラランドへ行つたときにも現地の人に伝えた話として、日本人は世界で最も特殊なカルマ(宿命)を持つ民族だと言ったということですから、日本人は天性特殊な民族なのかもしれません。

そうです、日本人は特殊な民族なのです。私が数十年にわたってアダムスキー支持のGAP活動を続けながら世

界を歩きまわり、各国のコーワーカーや多くの研究者たちと接触して知った限りでは、アダムスキーの宇宙的な哲学、特に「生命の科学」や「テレパシー開発法」をよく理解して実践できるのは東洋人、特に日本人です。近來はこの感をますます強くしています。

私が尊敬する外国のあるアダムスキー支持者が病弱で困るというものですから、「生命の科学」に述べてある反覆思念法やイメージ法を實踐しなさい、病氣は人間の強烈な想念によつて必ず治るからと伝えたのですが、そこまでは理解しなかつたようです。病氣というものは人体内の物理化学的な異常によつて起こるのだから病院で物理化学的な治療を受けなければ治るものではないと思ひ込んでいるのでしよう。

一方、東洋人は昔から想念と肉体との關係をよく知覚しており、それなりの哲学や思想が発達したのですから、東洋哲学に似ているアダムスキー哲学を理解しやすいのでしよう。

アダムスキー全集は国内でかなりの有名な人や芸能人、評論家などに「ひそかに」読まれているようですが、この人たちは内容についてコメントせず、沈黙を守っているだけです。しかしどちらかというところ、この人たちがひかれるのはアダムスキーの哲学にあるようです。出版社によりますと、全集のなかで最もよく売れるのは第一巻「宇宙からの訪問者」と第五巻「テレパシー開発法」だということですから、なぜ「テレパシー開発法」がよく読ま

れるのか、理由がわかりですか？

それはこうです。日本人は本来テレパシクな民族なのです。以心伝心とか腹芸というのは日本人特有のもので、目と目を合わせて微笑してうなずき合い、簡単な言葉を交わすだけで互いの意志が通じますが、白人はこんな無言劇は苦手で、自分の語る言葉だけでは不十分だと思つたのか、身振り手まねを加えて説明します。むつかしい民族学的な理論をまつまでもなく、日本人の抜群の感性というものを毎年海外から帰国するたびに感じるのです。話がそれてしまひ、日本人礼賛論になつてしまひましたね。

奇跡を起こすアダムスキー哲学

さて、問題はアダムスキー哲学です。過去に多くの宗教や哲学や心靈問題をも遍歴した私にとつて、これほどに宇宙的な想念を起こさせる深遠な思想を知りません。もちろん一個人の価値観が万人に通じるはずはありませんから、私にとつて最高の哲学であるといつても他人には無価値であるかもしれません。しかしアダムスキー哲学は他の哲学、特に西洋哲学に見られる観念論とは全く異なつて、人間個人のフィーリングを大宇宙の彼方にまで拡大させて万物一体感を起こす力をもつています。重要なのは、こうした

実際のなフィーリングを起こさせるばかりか、そのフィーリングによつて、自分の運命を長き方向に変えますし、肉体に故障があればそれを治す点です。その他望ましい物事を奇跡的に生ぜしめる力を

發揮するようになります。西洋哲学はアタマのなかで理論をひねりまわすだけのコトバの遊びという感じがしますが、アダムスキー哲学は個人の肉体や運命を根本から変えてしまうような強烈な想念をわき起こす宇宙的な力を生じさせます。これを最も平易に解説したのは「生命の科学」で、この中には人体細胞に関して科学で未発見の理論が述べてありますし、またテレパシー現象が発生する理由は「テレパシー解説法」に詳述してあります。

いまこれらの書物をここで詳細に解説する余裕はありません。くわしくは同書をお読み頂くことにして、断言できるのは、これらの書物を研究し実践することによつて、実際に奇跡を起こしたり、テレパシーの能力を開発する実例があるということです。

たとえば、福岡市在住の日本GAP会員でアダムスキー哲学の熱心な実践家である西本有水子さんからの最近の報告によりますと(六月十三日付)、彼女がご主人の運転する家用車の助手席に並んですわり、後部座席に二人の小さい娘さんに乗せて、高速道路を時速九十キロで走っていたとき、突然前方に犬が現れて道路をゆつくりと横断するので、これを避けようとしたために右側のガードレールに激突して車の前部は大破したということです。

ところがこの事故発生の約二十分前に、有水子さんが急に「シートベルトをつけよう」という気になつて、自分がまず着用し、いやがるご主人にも無理矢理つけ

させたのが幸いして、二人とも全くケガをせずにすんだし、後部座席にいた娘さん二人はシートを前に倒して仰向けになつて寝ていたために全く無傷でした。警官が調べに来たとき、ケガ人が全然ないので不思議そうな顔をしていたということです(本号「Uコン広場」を参照)。

事故を避ける予感テレパシー

有水子さんが事故の少し前に「シートベルトを着けよう」という気持ちを起こしたのをただの偶然だと考えれば、人間が事故をのがれるのはすべて偶然ということになります。しかしニューヨークの地下鉄で大惨事が発生して多数の死者が出たとき、その日に限つて今日は乗らないほうがよいという印象を得て助かった人(黒人が多かった)もかなりいたということです。ですから、有水子さんの場合は明らかにテレパシクな予感を起こしたと言えるでしょう。こうした予知・予感によつて危険をのがれた例は世間にずいぶんあります。中国での戦争や太平洋戦争に従軍した人たちのあいだで、不思議な運命をたどつたという実例が沢山ありましたね。

したがつてテレパシーというのは他人の想念内容を感知するばかりでなく、自分の前途に横たわつている危険や事故をそれとなく予知して、適切な行動をとるといふ利点もあるわけです。いづれにしてもテレパシーは発信よりも受信のほうがむつかしく、この能力開発には忍耐強いトレーニングを必要とします。現在日

本GAPは毎月東京で開催される月例研究会でテレバシー開発トレーニングを實施して成果をあげていますし、地方支部の月例会でもトレーニングをやっています。テレバシーに関しては全集第五巻の「テレバシー開発法」を熟読して下さい。

金の原子に関する大発見

アダムスキー哲学で根幹をなすものは、自分の肉体の属性であるマインド(心)を、肉体内部に充満している「宇宙の意識」と一体化させて、「意識」から来る印象に従うことだという点にあります。

この「意識」というのは普通に用いられる意識という語の意味とは異なるもので、大宇宙に還帰している「宇宙力」または英知ともいべきものであって、これは人間を初めとして万物に宿っています。哲学者によつては、そんな宇宙の意識などは宇宙空間に存在しない、あるのは偶然性だけだと言う人もあります。アダムスキーによれば、万物は原子から成り立っていますが、この各原子核の中にスパーク(生氣または魂)が存在していると言っています。これも宇宙の意識のあらわれです。

こんなことは現代物理学でまだ理論づけられていないために、アダムスキーのドグマ(独断的見解)とみなされるかも知れません。

しかし最近、意外な事実が発見されました。今年三月三十日付の新聞によりまず、日本の新技術開発事業団の林超微粒子プロジェクト基礎物性研究グループ

のリーダーである飯島澄男博士が、大きさが十万分の一ミリから百万分の一ミリという金の超微粒子を真空中でシリコン酸化物の表面に付着させ、倍率二百万倍の電子顕微鏡からビデオテープに録画して観察したところ、常に固体であるはずの金のカケラがまるでアメーバのように十分の一秒という短時間で次々と形を変えていることがわかったというのです。これは電子顕微鏡の電子線のエネルギーが引き金になって金原子が活性化するためと見られているけれども、すべての金原子がいつせいに配列を変える現象は謎だということです。

どうやらアダムスキーの原子核にスパーク(生氣、魂)が存在するという説は間違いないようですね。つまりアダムスキーの科学的哲学的な諸説はどうみても立証される方向に動いている、としか言えないのがないのです。

それはそうでしょう。彼の宇宙的体験はもろろん哲学的な諸理論も、もとをたせば彼の独創ではなく、はるかに偉大な発達をとうけた別な感星の人々から伝えられた知識だということですから――。

ここに私たちがたまらない魅力を感じる一つの理由があるのです。現在までの哲学はすべて地球人の頭からひねり出されたものですから、道理でいくら研究しても宇宙的フーリングは起こってこなかったわけですから。だからアダムスキー哲学は他の哲学や宗教とはまるで次元の違うもののだと言えるのです。

マインドと宇宙の意識との一体化

アダムスキー哲学では人間の想念の力やフーリング、肉体内部からわき起る印象などを重視しています。そして万物がすべて「宇宙の意識」によって形成され生かされているといえます。これを宗教的に表現すれば「万物に神が宿る」とも言えるでしょう。しかしアダムスキー哲学は宗教とはいっさい関係ありません。つまり人間の外部(これを哲学用語では外界といえます)に超越的なもの、(つまり神のようなもの)を設定して、それを礼拝したり祈りすがったりせよというのではなく、人間の内部(これを内界といえます)に宇宙的な力が満ちているので、それに気づいて、分裂と混乱で明け暮れしているマインド(心)をそれと一体化させればよい、そうすれば内部の「宇宙の意識」から正しい印象の声を聴くことができ、テレバシクな人間となり、間違いない人生を送れるようになる、というわけです。ここには宗教にありがちな束縛や恐怖などは一切存在せず、完全な自由があるだけです。それは宇宙的な自由です。こうして「宇宙の意識」の世界にのめり込んでしまおうといのです。

「祝福」の想念がカギ

宇宙に還帰する「宇宙の意識」(これを創造主と呼んでもよいでしょう)は、万物を創造するのに、もとは完全に調和した状態にある、完べきに創られたものの青写真を描いていたにちがひありません。だから人間はより完全なものを目指して

向上しようとするわけです。この空間の青写真らしきものに何となく気づいて、これをアイデアと呼んでいたのはプラトンやアリストテレスですが、なにせ二千年以上昔の哲学ですから、引用はやめましょう。それよりも現代の私たちは、もつとわかりやすい言葉で解説された、実践できる哲学を身につける必要があります。高貴な異星人のような生き方をするには、何が最も重要か、という質問に答えますと、それはアダムスキー全集の到る所に述べてありますが、特に第二巻「UFO問題の真相」の二〇頁第一行に、「彼らは(異星人たちは)いかなる人間の集まりのなかへ入っても祝福の心を持たないで座することはできないという意識的な知覚力を有している」とあります。

問題はこの「祝福(ブレスィング)」の想念にあるのです。万人や万物にたいする祝福の想念です。アダムスキーによれば、人間が想念を起こすと、それは無数の荷電粒子となつて空間のあらゆる方向に火花が散るように進行してゆくということで、その荷電粒子の放射やキャッチによつて遠方の人間とテレバシーの通信が可能になるというわけですが(もちろん想念波動を形成するこの荷電粒子なるものはまだ科学的には未解決です。アダムスキーはおそらく異星人から聞いたものと思われ、特に祝福の想念というのはいわゆるエネルギーの強い高周波の精緻な波動になるらしく、これが外界に放射されると、何らかの理由で放射した本人が逆に「祝福されるような状態」になるのです。

祝福という言葉は宗教的に響くかもしれませんが、これも宗教とは全く関係ありません。「祝福」という言葉以外に適切な表現がないのでこれを用いるのです。

しかも祝福の想念こそ大宇宙に直結して、その内部に存在する万物に良き影響を与える強力な「放射線」であるらしいのです。科学では未解決ですが、このことは間違いないでしょう。

私自身の体験を例にあげますと、以前は都内のタクシーに乗るたびに、料金を受け取ってもモノも言わぬ横柄を運転手さんばかりの車に乗っていました（東京のタクシーは悪名が高いのです）。

ところが万物にたいする祝福の想念を本格的に強烈に放つようになってから、不思議にも親切で善良な運転手さんの車ばかりに乗るようになりましたね。これは不可思議な現象であって、私がテレパシクな状態であるようなタクシーだけをつかまえるのか、それともそんな車だけが私に引き寄せられるのか、そのあたりの因果関係はよくわかりませんが、祝福の想念波動が原因をなしていることは間違いないでしょう。

どんなに憎たらしい人になたいしても、憎悪の想念を祝福の想念に変えて、それを相手に放射し続けられれば、奇跡的に相手が変わり、自分も変化することは、すでに少なからぬ実例でわかっています。人間の放つ想念によって、本人はどのようにならぬか」というのは宇宙の法則の一つでしょうね。

現代の科学は万能ではない

以上述べた事柄を現代の科学に照らして、「科学で説明されていないことばかりで、すべて非科学的だ。信ずるに足りない」と言う人になたいしては、工業技術院のロボット研究者として世界最高レベルにあるといわれる中野栄二博士の言葉を引用しましょう。ロボット研究によって科学信仰がますます強まるかという新聞記者の質問にたいして、博士は次のように言っています。

「とんでもない。逆ですね。科学がどうしても到達できぬ人間の限りなく偉大な能力、いや、人間ばかりでなく、大自然が生んだ、生きとし生けるものへの畏怖の念に打たれて……。ロボット研究を通じてあらためて知らされたのは、人間の尊厳さ、自然の揺るがぬ摂理（法則）ですね。

浅薄な科学技術で、生命あるものを容易に理解する、征服するなど、とんでもない笑止千万な思い上がりです。

地面を五センチも掘れば、土の温度の微妙な変化や土壌に生きる数十億もの微生物に気がきます。この不可思議な宇宙の生命は、科学の力などをはるかに超えています。科学万能とは傲慢なタワ言にすぎませんね（傍点は筆者による）。

博士はくり返し自然を賛美し、家庭菜園の楽しみを語ることです（読売新聞六月十一日付夕刊）。

これは要するに現代の地球のレベルの科学では大宇宙の驚異や謎などは解決できないという意味であって、もつと謙虚になれと諭しておられるのでしよう。科学を否定せよという意味ではありません

ね。

宇宙哲学の実践法

アダムスキー哲学（宇宙哲学ともいう）の実践法として、私の知る限り、その中心となる方法は大要次のとおりです。

(1) まず自分を中心として周囲の目に見えるあらゆる物——人間、生物、物体など——を、すべて原子のかたまりであると認識します。これは物理学上間違いないことです。路上を歩く見知らぬ人たちが家々、道路、樹木、電車、バス、自動車、その他のあらゆる物を、すべて無数の原子群の凝集体であるとみなします。

(2) この原子群のいずれにもスパーク（生氣・魂）が宿るので、一個の個体はスパークの凝集体です。この原子群を凝集させて、これに宇宙的秩序を与えているもの、というよりも宇宙的秩序自体が宇宙の意識であることを認識します。そして自分も宇宙の意識体であることを自覚します。この秩序については、量子力学の創始者で原子物理学の基礎を築いたシュレーディンガーが「一個の生物体の一生の中で繰り広げられる出来事は、生命をもたないものの中でわれわれが出会う如何なるものも遠く及ばない。実に感歎すべき規則性と秩序」とをあらわしている」と言っています。

と、この規則性と秩序とを宇宙の意識と呼んでよいでしょう。この秩序は生物だけでなく無生物にも及ぶものです。

(3) したがって万物は（空気さえも）宇宙の意識体そのものであり、しかも宇宙の

意識は万物が生成発展して完全になるようにとの「祝福」の想念を含んでいる、というよりも宇宙の意識・イコール宇宙の祝福の想念であるということを確認します。

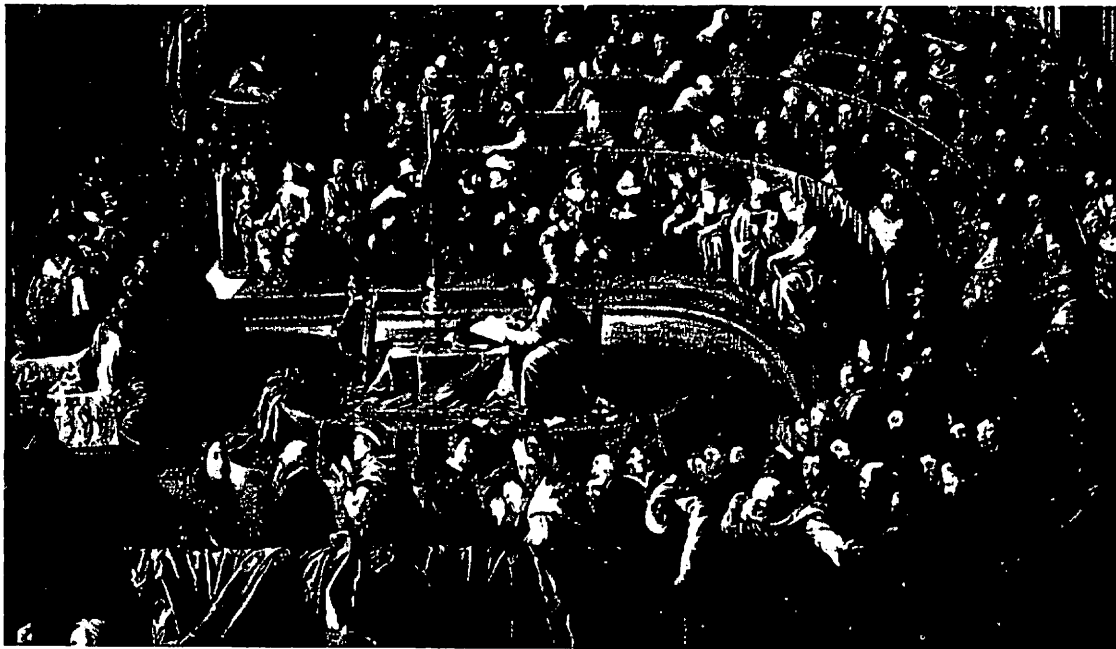
(4) そうなると、自分自身が宇宙の祝福の想念波動の大海の中に生きているというフィーリングが発生してきます。

(5) このフィーリングを高揚させ続けると、自分がいかなる環境、いかなる場所においても、周囲のあらゆるもの、あらゆる人、あらゆる無生物すらも、燦然と輝く宇宙の祝福の光であるというようなフィーリングが生じるようになります。

(6) そこで自分も宇宙的な祝福のフィーリングを放射し返して、周囲の万物と一体化します。言い替えますと、家にいるときは家庭や家族という祝福想念体に分が包まれており、道を歩くときは大勢の人々、道路、周囲の建物群やその他目に見える範囲の万物という祝福想念体に分が包まれており、バスに乗っているとバスと乗客群という祝福想念体に分が包まれているというようなフィーリングを起し、こうして「自分が行動するとき

は常に周囲にあらゆる種類の祝福想念体が微笑して自分を包みながら一緒に存在している」というようなフィーリングを起すと共に、自分も微笑して祝福の想念を万物に放射し返すのです。そしてその想念波動を周囲の環境から地球全体へ、太陽系全体へ、銀河系全体へ、というふうに限らなく大宇宙空間へ拡大してゆきます。

(7) この宇宙的フィーリングを常時失わな



●ガリレオの宗教裁判

地動説をとなえたコペルニクスを裏付けたガリレオ・ガリレイは、1633年にローマで宗教裁判にかけられて、地動説は誤っているという宣誓書を書かされ、謹慎を命じられたが、判決後に「それでも地球は動いているんじゃない」と有名な言葉をつぶやいた。中央書記官のテーブルの前に座って目をつぶっている黒服の男がガリレオ。

いようにしていれば、自分自身に驚くべき奇跡が発生します。

(8) 職場などでトラブルを起こしがちな問題の人物がいれば、それにはいしてひそかに祝福の想念と相手が善良な人間になったイメージ——レーザー光線のような強烈な想念とイメージ——を撃ち込めば、その人物は奇跡的に変化して穏和な善良な人になってきます。そうなるまで撃ち込みを続けるのです。

(9) 自分の望ましい物事を実現させるには、以上に述べた万物一体のフィーリングと祝福の想念を基盤にした上で、「必ず実現する！」という強烈な信念を持ち続けるすなわちミラクルワード（奇跡を起こす言葉）をとえ続けるか、またはすでに実現してしまったイメージを鮮明に心に描き続けると、本当に実現します。このことはすでに本誌で何度も解説しましたから、詳細を述べませんが、要点だけを紹介します。

(10) 大病院などで見放された難病、たとえばガン、リウマチなどを治すには、まず自分自身を祝福想念体にし、周囲の環境のすべてを、万物を、創造主の祝福想念体とみなして宇宙的な喜悅のフィーリングを起こします。

(11) 次に、自分が確実に健康体になったイメージを心中に鮮明に描き続けながら、「治る、治る」という言葉を数千回、数万回も続けてとなえると、想念が肉細胞に与える影響により、肉体に変化が生じて、本当に治ってくるのです。

ただし骨折その他手術を要する故障や医学治療で治る病気が科学の恩恵に浴す

べきです。

以上の望ましい物事を奇跡的に実現させた実例はGAP会員のあいだで多数発生しています。ガン、リウマチ、心臓病その他の病気が治った例もありますし、お金がなくても二百万円もする自家用車をポカッと入手した人、あるいはイメージどおりの理想の女性と結婚した人もいます。また若い男性で、体重が八十キロを超えるほどもあった人が、やせたイメージを描き続けることによって、六十キロまで減量に成功したという体験を東京月例会で語ったことがあります。

この宇宙哲学実践法について述べたいことはまだ山程ありますが、紙数の都合でこれだけにします。この哲学は単なる観念論ではなく、現実の世界や自分自身に何の関係もない抽象的論議でもありません。人間や社会を生かす実践的な理論です。

三百年前のガリレオ・ガリレイの宗教裁判以来、科学は長足の進歩をとげましたが、人間の精神面はまだ当時の聖職者裁判官たちの域を脱していないように思われます。アダムスキーの宇宙的哲学はいかなる宗教や哲学のティーチングとも異なるもので、以上に述べた実践法は、人間の想念と肉体との関係、デカルト以来の二元論を打破した意識と物質との一体性などの認識が確立されると思われる来世紀の精神科学を先取りしている

と確信します。

説明不足のため納得がゆかないかもしれませんが、詳細については東京月例会で解説講話を行っていますから本誌四〇頁の案内をご参照の上、ご来場下さい。

投稿欄

ユークン広場

素晴らしい静岡支部大会の講演
東京 佐々木八郎

先日の静岡支部大会では、素晴らしい御講演をお聞かせいただき、ほんとうにありがとうございました。久保田先生のお話が進むにつれて私のフィージングはどんどん高揚していききました。ふつう他の人が汗をかきときに私はほとんど汗をかきません。暑くても運動したときでも汗はほとんどかきません。理由はわかりませんが。

しかし先生のお話が「ひそかに人に知られないように、だまって祝福の想念を送り、日本GAPは祝福の想念放射体の集団になろう」というところにさしかかかってきたとき、私の体の細胞の一つ一つが内側から力(光)を出し、体が宇宙的想念に満たされ、エネルギーでいっぱいになり、熱くなっていくのが自分でもわかり汗がでてきました。

夕食会の半ばまでこのフィージングは続きました。それはまるで原子核の中の核がスパークしているようでした。私にとつてはこのことは奇跡的なことでした。このときのフィージングを忘れないようにして、スペースプログラムに積極的に協力していきたいと思えます。また自分自身も高めていきたいと思えます。

久保田先生、ありがとうございました。先生のあのあたたかい宇宙的祝福の握手をわすれません。静岡支

部のみなさん、静岡支部大会に参加されたみなさんの宇宙的なフィージング、想念に感謝しています。また上空からよせられた高貴な優しさにあふれた想念に感謝しています。

今もまだ、あの静岡支部大会のあの会場にいて久保田先生のお話を聞いているかのような気分がしています。久保田先生のミラクル・スピーチをまたお聞きしたいと思えます。

話は変わりますが、前の日の4月27日に静岡支部報を読みかえしてましたら、突然「明日の大会にはぜひ参加しよう」という気持ちになり、行こうと決めていました。そしてこのようになすばらしい宇宙のな体験が得られたのですから、もう何も言うことはありませぬ。ではつぎの宇宙の出会いまで、さようなら。

きわだっている日本人

在ニュージールランド 橋本由紀子

お元気ですか。連絡が遅れて申し訳ありませんでした。無事、オークランドに着いたのはいいのですが、なかなか落ちつき先が決まらず、四週間、小さな家族で営んでるプライベートホテルで暮らしながら、アパートを探し、今住んでいる家を見つけてきました。この家には二歳、六歳、八歳の子供たちと、そのお母さん、それからもう一人、街につとめているサラリーマンの計六人で住んでいます。バス、トイレ、キッチン、リビングルームを共同で使っています。

私はここに来て何をしてくるかといえますと、働いています。月、火、水、木が午前九時から午後五時半まで、金が午前九時から午後九時、オークランドで最も大きいスーパー・マーケットです。シープスキン、ラムスキン、ウール製品、マオリの彫刻その他おみやげを売っています。JALなどのJT、Bの日本旅行だの、日本人のツアーがドドッとやって来て店中をひっくりかえし、山程買ってゆきます。特にハネムーンで来ている新婚カップルの買ひ方は驚くばかりで、皮のコートをまとめて五着だの、チヨコレットを段ボール一箱分だの買ってゆきます。何と今日来たカップルは本彫を25キロも求めて二人で持つてゆきました。日本人以外のお客で皮やウールを買う人などごまかれません、ステッカーとかキーホルダーなどちよつとした小物類しか買いません。この店は日本人で成り立っていると首つても過言ではありません。そういうお店なので日本人スタッフが必要でフルタイム働かされています。

毎日日本人ばかり相手にはして仕事は面白くは言えませんが、せつかくニュージールランドに来たのだから、精いっぱいこの国を吸収するようがんばりたいと思っています。ただ私はここに来てとてもよかったですと思っています。ニュージールランドに流れている雰囲気といつとも感じます。人々がみな親切なせいも知れませんが、自然がとても美しいかも知れません。よけいな日本語が頭を通過しないせいもありかれません。創造主を身近に感じています。このあいだ「生命の科学」の第八課を読みました。アダムスキ

の言葉が頭の中で異和感を全くおこさず、ザッと体の中に入ってゆくような感じがしました。また、ヨーロッパの生活をしてみて、日本人というのは本当にきわだつてこの国とも異なつたものを持つ不思議な民族だなあと思っています。おみやげの買ひ方もきわだつてますけどね。

ところで、図書館でアダムスキの「宇宙からの訪問者」の原書を見つけた。今「宇宙船の内部」の方を読もうとしているところです。先生の日本語訳はとても素晴らしいと思ひました。私、先生が訳された第十一章の日本語が美しく大好きです。フアークンの「遠い昔 私たちは信念の力……を学びました」というところが。この国のどこかで誰か日本GAPのメンバーのように「宇宙の真理」を意識している人がいるでしょうか。アダムスキの語つたことを理解して彼にならおうとしようとする人はいるでしょうか。実際に本は出版されている図書館にもあるのですから、いるはずじゃないかと私は思っています。もしいるのなら会つてみたいと思つてしまっています。先生、おねがいです。もしニュージールランドのGAP代表者をお知りでしたら教えて下さい。ニュージールランドはアダムスキが講演旅行をした時は政府も後援した国でしたね。それらにかかわつてきた人たちに会えるものなら会つてみたいのです。それから今日はこの辺で失礼します。これから創造主の祝福のもとに美しい日々をすごして下さい。

星々への旅

宇都宮市 菊地啓子

静岡支部大会では大変ありがとうございました。今まで何度となく聞いてきた事が心の奥までしみこんで来た様でした。頭での理解を超えて理屈ぬきで感じられ、個人的にあつた色々な事のモヤモヤが吹き飛び、たつた今からGAPの二会員として出なおした。ふるい立つほどの勇氣が湧いてきた。イメージを描く事で世界を変えることも可能であるという話は、実行力に引け目を感じている私にとつて光です。どんな所にもいようと平安で調和のとれた世界をイメージする事は可能です。(この事は昨年のイスラエル旅行で自分なりに学んだ事でした。想念の力や信念の力を知る人間は悲観的、利己的な想念を発してはいけません。また発する事のない様に努力すべきだと思ひます。困難でしょう。しかしやらなくてはならないと感じます。社会から逃げたり目をつぶつて汚点を見ない事とはちがいます。和して回せず。私はG・アダムスキ氏や久保田先生から伝えられた哲学が宇宙の不变の真理だと信じます。それ以前の偉人からの言葉でも信ずるものがあります。どちらでも唯一真理ですから。

望めばその通りになる。親切で思いやりがあつて、明るい仲間たちと里から里へ旅をする。スクリーンには、はるかな星雲や新しい太陽系の姿が映り、幼な子の惑星に勇気ある人々が降りてゆく。指導者の一人と話をした。「また星々が近づいて来て、ゆつくりと同じ場の中へ合流する。連絡用の小型船が数人の人物を乗せている。別の惑星系の人々らしい。

封面すると私の内奥に新たな宇宙が
広がりが、歴史と知恵が流れる。数人
が自ら望んで別の母船へと渡ってゆ
く。あちらからも来る。再び分立す
ると生き生きとした光体となって旅
立ってゆく。——SFなんて月われ
ない時がいつか来ますね、きつと
どうぞお元気で。ありがとうござい
ました。

感動の松山支部大会

山梨県 清水 南

松山支部大会ではすばらしい講
演をいただき厚く御礼申し上げます。
先生の御講演により高松事件がGA
P活動と密接に結びついていること
が良くわかりました。又この活動が
宇宙に対する地球全体の開放と、世
界平和をめざすという目的を持つと
いうお話をうかがい、私は大きな使
命を感じると共に更に実践精進しな
ければならないと思いました。

この大会では先生はじめ伊藤さん、
会員の体験講演をされた西本さん、
そして奈生ちゃん、全国各地から参
加された会員の方々のすばらしいフ
ィーリングに包まれて大成功であつ
たと思います。夕食会も日本庭園を
前にしての日本料理の数々で充分堪
能させていただきました。更に二次
会では先生より数多くのお話や質問
等にも懇切にお答え下さり大変あり
がとうございました。また翌日の観
光旅行では四國の春を大いに満喫さ
せていただきました。この大会を実施さ
れた伊藤様はじめ松山支部の皆様にご
謝しております。

これからも東京月例研究会や地方
支部大会等へは出来るかぎり参加し
て勉強させていただきますと思いま

すのでよろしく御指導下さるようお
願い申し上げます。

すこい本誌89号

福岡市 西本有水子

春だ春だと思っておりましたら、
今日など初夏のかがりがある風がふ
いています。過日は松山支部大会で
のご講演ありがとうございました。
また写真のお札をと思いつつ今日に
なつてしまいました。松山での支部
大会後、職捜しに心ここにあらずと
いう雰囲気でしたが、これではいけ
ないと思い、またもや意欲の指導の
声を忘れていたぞと思い直し、あわ
てぬことになりました。

昨日「UFOコンタクト」89
号が手元に届きました。もう、感激
です！ 何という素晴らしい、迫力
！ こんなどい本が日本にあると
思うと血湧き肉躍る思いがいたしま
す。まず巻頭頁にある先生のお言葉
と信念にはいつもながら感銘を深く
いたします。思えばこれまでの数十
年間、ずっとこの巻頭頁にて、迷妄
の闇にあがき苦しんでいる地球の人
々に、一条の光をと不屈の信念を吐
露されてきたのだと思うと胸に迫る
ものがあります。本日に私達GAP
会員が安穩と(?)スペースビーブ
ルからの教えを読み、聞き、実践で
きるのも、先生の身を挺しての闘い
があつたればこそと感謝の言葉もあ
りません。先生がどつしりと中心に
構えておられると思うと、私達は安
心して活動できるような気がいたし
ます。ですからお体を大切に、いつ
までもいつまでも地球に真に平和な
世界が実現する日まで私達GAP会
員の重鎮としてご指導下さい。

また89号の遠藤さんの宇宙文字解
読の記事には驚きのあまりアツケに
とられてしまいました。これこそア
氏の体験の真实性を示すものである
という以外に何とさえいえないよう
！
大切などころはボカしてあると先生
がおっしゃつておりましたが、多分ボ
カしたとしても世間と与える衝撃は
大変なものがあると思います。それ
に静岡支部のメンバーの方々のテレ
パシーコンタクトのすこいにも驚き
ました。メンバーの方々の今後いつ
そうのご精選とテレパシー能力の開
花に期待したいと思えます。その他
「Uコン」の今までの様々な情報と
もあわせて考えると、本当に思った
よりも早くその時が近づいているの
だと実感いたします。まるで口裏を
あわせられたかのように進行してい
る種々の事件や事実が、その方向をは
きりとさし示しているように思えま
す。私ももつと足元をみつめて、自
分には今何ができるのかを、もつと
真剣に考えてみようと思つていま
す。その意味でも今回の「Uコン」89号
は大変示唆に富んだ素晴らしい出来
であると感じました。これか
らでも、ますますGAPは底力を出し
てゆくものと思われます。先生のご
活躍をお祈り申し上げます。

真実の人、ダニエル・ロス氏

茨城県 清水勝一

過日の茨城支部大会には御多忙中
にもかかわらずお越し頂き、また度
重なるご講演とご指導を頂き大変あ
りがとうございました。夜遅くまで
の質疑応答や普通お聞き出来ないよ
うな重要なお話をさせて頂きました。本
当にありがとうございます。なに

しる第一回の支部大会でありまして
何から何まで初めてのものですから、
かなり不備な点やご不満な事があつ
たかと推察致します。それにもかか
らず温かいご指導を頂きまして、
本当に先生は寛大で立派な方だなあ
と、改めて思いを致した次第です。
それから素晴らしい記念写真をどう
もありがとうございました。いつま
でも残る記念写真として大事に飾つ
ておきたいと思えます。どうもあり
がとうございました。またお手紙で
は過分のお言葉を頂き恐縮しており
ます。私の様な未熟な人間にあのよ
うなお勧めを頂きますと穴にも入り
たい気持ちです。先生のおっしゃる
様な人間になるよう今後も努力致し
ますので、ご指導、ご鞭撻の程よろ
しくお願い申し上げます。

次に「Uコン」89号につきまして
感想を述べさせて頂きます。いづれ
も素晴らしい記事で感動しましたが
私はダニエル・ロス氏の記事に興味
を覚えました。氏の目撃報告を読み
ますとスペース・ビーブルがロス氏
を援助している様に感じられます。
また氏のアダムスキー問題に対する
態度が非常に誠実であると思えます。
それは新聞社のインタビューの部分
と、「私はフリーランサーであつて、
部分的に真相しか扱わない個人やゲ
ループの援助を得たいとは思いません
。というの私は宇宙から来る訪
問者たちについて語るだけで、アダ
ムスキー氏がもたらした完全な真実
を語るだけです。——ここに非常に
感動しました。氏は真実の人と思
います。氏が先生と交流を続けられる
事は日本GAPにとって非常なブラ
スだと思えます。氏のUFOの著書

の紹介を計画されているようですが
心待ちしております。また原書が購
入出来るようでしたらその時はよろ
しくお願い申し上げます。

シユレ・ディンガの「生命とは何か」に感銘

名古屋市 高屋登茂子

静岡、茨城支部大会では素晴らしい
ご講演をありがとうございました。
また海外旅行の説明会ではとても楽
しく過ごさせて頂き、船りの新幹線
の中で愉快な雰囲気は続きませ
た。実は今年の三月中旬からはま
インドが不安定になり始め、ここ一
週間はひどいノイローゼで身の回り
のことも満足にできず寝込んでい
ました。「生命の科学」を開いても眼
は同じ行を壊れたレコードの様に
行ったり来たりするばかり……。つ
いには言葉もろくにしゃべれなくなり
ました。半日布団の中で自分の内部
に向かつて「ごめんなきい、ごめん
なきい」と泣きながら反省していた
事もあります。恥ずかしいですが
私は「生命の科学」に出会う前、悩
み抜いていたあの姿に戻ってしまった
のです。昨日から会社で一人で何
もかも調べてこなさなくては行けな
い仕事をいただき(素人向けのコン
ピューターのプログラムを組んでい
ます)誰の干渉もなしに自由にでき
る気楽さに満足したせいもあつて、
少しずつ正常な状態に立ち返りつ
つあります。

今日は河内太子さんから電話があ
りました。彼女はさすが私よりGAP
歴が長いだけあって、すっかり落
ち着いていました。名古屋支部月
例会に歴三年の女性が加わったそう
です。彼女は「生命の科学」に出会っ

たその日にUFOを目撃したそうです。名古屋支部は最近急にニギヤカになって来たときよく言われます。

去年かその前の年位から地球的規模でまたは宇宙的規模でかも知れませんが、もう準備はととのつた、サア新しい時代が始まった。安心して前進して良いのだ」という強い印象があります。昨年の総会で更にこの感も強まりました。日常のちよつとした事でマインドが低迷しそうなった時、私はいつも地球の未来を考える様にしています。するとなぜか心がウキウキとして来るのです。

昨年読んだシュレーディンガーの「生命とは何か」に大変興味深い二つの事柄が書かれてありました。ひとつは先生もおっしゃった「秩序から秩序へ」という考え方です。もうひとつは量子飛躍の際に必要とされるエネルギーは、二つの分子の実際の単位差よりはるかに多いということです。ごく普通の分子がある時高エネルギーを供給された事によってその配列が変わり、しかも一度引き上げられた単位は熱力学第二法則に反して、再度何らかの衝撃を受けな

い限り二度と元には戻らない……。極微の世界でひんぱんに行われているこの突然変異と呼ばれる現象にも大きな示唆が含まれています。私は小さな分子を人間にたとえずにはいられません。同じ人間でありながら意識と一体化できずに十五十六回の転生を繰り返しただけで消滅してしまふ人がいるかと思えば、中には永遠の生を生きるわずかな人もいます。宇宙には何もかも元の状態に帰って行くという絶対的な方向性があります。こちらへんからエントロピーと

いう概念（私はエントロピーとは、言われている様に歪などではないと思います）が出て来たと思われま

す。意識に目覚めた多くの人々には一定期間の寿命をまっとうした後自然消滅するのです。では突然変異の様に真の生まれ変わりをし、安定性を待った分子の様に永遠を旅し始めた人々には一体何が起こったのでしょうか。それはアダムスキーの宇宙哲学との出会いであると思います。人間の生の中でこれ以上の衝撃はありません。ある人は円盤の目撃であったりある人は「生命の科学」であったりするかも知れません。ひとつによってそれは様々な形で訪れるのですが本質には変わりありません。

シュレーディンガーは素晴らしいですね。生命とは何か」は何十年も前に書かれたにもかかわらず、アダムスキー哲学の真髄に迫っています。ただひとつ惜しむとすればそれは彼が万物を生命ある物とそうでない物に分離させた考えから抜け切つてしまえなかつた事です。この本のエピソードに彼らしい哲学が書かれてありますが、その中で「ただ一つのものだけが存在し、多数あるように見えるものはこの一つのもの現す一連の異なる姿に他ならないものである」と、惑る幻によつてつくり出されたものだ」というくだりや、そのあと「自我の探求に及んでいようとするのは私を愉快にさせてくれます。彼によつて「自分自身を知れ」という名前の真実性をまた思い出させられたわけです。「生命とは何か」については感じた事をそのまま書いて行くと便箋がゲンボール箱一杯一杯りま

すからこのへんでおしまいさせて下さいませ。

朝霧高原でUFOを見る

千葉県 岸本 悟

静岡支部大会ではすばらしい講演をどうもありがとうございました。祝福の想念を送るのに、どのようなフーリングを持って行つていけば良いのかわかつたような気がします。それから三次会や東京での夕食時等のお話で愛というものについて考えさせられました。私などは俗っぽい人間ですからそこに愛にこだわつたりしますが、男とか女とかいう形で相手を見るのではなく、一人の人間として相手を見ることができれば、もつと宇宙的な愛を理解できるのかもしれないですね。人間と人間の交わりというものに対して、すばらしいなあとこの感じを持ちました。

ところで大会の翌日の観光のことです。朝霧高原をバスが出ようとする少し前に後ろの方が気になつたものです。後ろを振りむきま

すと、窓の外で何か白く二回光り、小さな雲の中に入って隠れてしまいました。その時に、私の後ろの席で窓側が山口緑さんが座つていたので、そのものが雲から出てきた時にあれは何だろうかと彼に尋ねようかと思つたのですが、その時にバスが動き始め、確認が取れないうちに雲が見えなくなつてしまいました。ですから文字通りのUFOということになるのですが、他の感思から来られた方の乗物かどうかはわかりません。

なつかしいGAPへ帰りたい

北海道 石原博子

私は三年前にGAPを辞めました

石原です。あの頃は本当に申し訳ない事をしてしまいました。本当に自分勝手なことをしてしまい恐縮です。どうもすみませんでした。それからもずっとGAPの事が気になっていました。しかしその気持ちを見無視してしまいました。

この三年間には色々な事がありました。高校を卒業、就職、そして四月に退職したばかりです。家庭内でも色々あり、ようやく落ちついた感じになりました。私自身もようやく自分を取り戻せるようになって、色々感じたり考えたりできるようになりました。いい勉強になりました。

つい最近の事ですが、掃除をしていましたら「想念観察手帖」が出てきました。そして「あつ、これだ」と思い、早速その日から始めました。毎日、何かハリが出てきました。あの表紙はとても不思議なのです。なつかしい感じがします。

GAPをやめてからもアダムスキー氏の事が気になっていました。そして、J・クリシナムルティの本を読んだりしていました。心は常に何かを求めていました。今、やっている事がどうも納得いかず、「自分のやりたい事は、もつと何か違うはず」と思い続けていました。そして手帖がきつかけでこの手紙を書く決心をしました。誠に自分勝手なお願いですが、もう一度GAPへ入会したいのです。今度以前の時とは気持ちも新たに、真剣に前向きに取り組んでいきたいと思つている次第です。どうかよろしくお願ひいたします。勝手な事をすみません。この気持ちだけ分かっていただければ幸いです。ご多忙中読んでいただき、本

当に有りがとうございました。これからもお体に気をつけてがんばってください。私もがんばります。

ぜひ入会を

山形県 寺嶋明子

はじめまして。書店で「UFOコンタクトキー」を買ひ求め、日本GAPに入会させていただけたらとペンをとりました。私は今年二十四歳になりましたが、今迄にUFOらしき物体を目撃したのは三回ばかりです。そんなことから様々な雑誌などを読んでみましたが、数多くの情報がとびかうばかりで、自分の力では理解できずいたところですが、友人などにもUFOの話をするのですが、「子供じみてる」「馬鹿な」とか、相手にしてもらえないどころか笑われるばかりでした。UFOが関係あると思われている事件や体験のたぐいは知つてつもりですが真相は全くわかりません。正直言つたら日本GAPの存在そのものが私にとってはショックなものでした。私のような者が皆様の仲間に入れただけるか不安ですが、私も真相を知りたいのです。どうぞよろしくお願ひ致します。

科学的でわかりやすい講演

静岡県 赤池澄夫

静岡支部大会では素晴らしい講演をしていただき、誠にありがとうございました。お話の中で、無生物から来るテレビシュー現象の実話を例にして説明していただきましたので、人間以外のあらゆる物にも祝福の想念を送ることの重要性はよくわかりました。また、それを日當四六時中

起こすことの実践によって、自分と周囲の環に大変化をもたらすこととは十分に考えられます。この素晴らしい方法を私も大いに応用したいと思っています。特に「祝福の想念は宇宙の意識の働きであるので、人間が祝福の想念を起こすことは共振現象を生じさせて、さらに強力な波動を起こす」という重要なお話を、物理的な説明を入れてわかりやすく、大変に科学的だと思いました。

久保田先生から祝福の想念哲学をお聞きできまして、宇宙哲学がまた一段とわかりやすくなりました。これからも祝福の哲学をお話していただきたいと思います。

今度の大会が、大会とUFOの関係のことばかり忘れていました。ところが、三次会の際に野口代表が、今、UFOを目撃したと皆の前で発表しましたので大変驚きました。なぜなら野口代表は、つい先ほどまでここで私達と一緒にいましたから、いったいいつ外に出て目撃されたのか不思議な気持ちになりました。そして三次会も終わり、店から出ましたら、今度は佐藤和枝さん達がUFOを目撃しましたので、あまり頻りに出現するUFOには、ほんとうに驚きました。それから、翌朝はホテルから富士山の方に金色に光る飛行体を松山支部の伊藤代表の方々が目撃されたと聞きまして、またまた驚きました。翌日の観光は前日の天気やうそのような恵まれたお騒ぎでほんとうに、いつべんに目が覚めました。またなつかしい朝霧高原では、私も皆さん方と日本の美し

い富士山を觀賞しているときに、富士山頂の少し左側の空に何か黒いようなものが、少しの間じっと浮いているのを双眼鏡で見ました。その大きさは山頂に達してあるドームの五分の一、六分の一程度かと思われました。形はコッペンのようなものに見えましたがはつきりしません。発見時は鳥かなとも思いましたがしかし鳥にしては別のものであるような雰圍気を感じたもので、やはり何か妙でありました。その物体はじっくり観察する余裕も与えずに富士山中腹あたりに鳥のように降下して見えなくなりましたが、その後まもなく野口代表は、富士山中腹より先ほどの物体が飛んでいくのを目撃しておりました。

あれが仮に鳥だったとしても、朝霧高原にやってきた日本GAPの団体を見つめるために、富士山頂の高所が大変眺めが良いので、そこへ飛んできたのだらうかと思いましたが、しかしいまだに私は、あの鳥は何だつたのだらうかと気がなります。大成功の大会を終わって、宇宙の真実を探求することとUFOの出現に関して深い何かを感じさせられました。

あれが仮に鳥だったとしても、朝霧高原にやってきた日本GAPの団体を見つめるために、富士山頂の高所が大変眺めが良いので、そこへ飛んできたのだらうかと思いましたが、しかしいまだに私は、あの鳥は何だつたのだらうかと気がなります。大成功の大会を終わって、宇宙の真実を探求することとUFOの出現に関して深い何かを感じさせられました。

おめめでた
去る六月三十日に東京・芝パークホテルにて日本GAP東京本部役員佐藤忠義氏と広島市の会員佐々木智子さんの盛大な披露宴を挙げる。計八十名が出席し、夫妻の門出を祝福した写真。前列左より四人目から安藤澄雄 撮影/東京二二五

まして肝を冷やしました。主人の運転する車で高速道路を九十キロで進行中だったのですが、突然、左ワキから犬が出てきて、それも飼い犬のせいかゆつたりと横断しようとしていたもので、全くびびりしました。近くに民家がたくさんあり、あれは常習犯ではないかと思えます。それをよけようとして右のガードレールに激突したわけですが、全く速のよかつたことに事故の起こる二十分くらい前に、急に私が「シートベルトをつけよう」という気になってベルトをつけ、主人にも、いやがるのをムリにつけさせていたのです。おまけに後ろの子供達は（シートを前に倒すと寝るようになっていたので）体を伸ばして寝ていたので、前のシートで頭をちよつとぶつけたくらいですみました。主人は少しバックミラーで頭をかすってケガをしたのですが、たいしたことはありませんでした。警察の方が、他にもケガした人がいるに違いないと思込んで、ケガはないかとしつこく聞かれましたが、私と子供は全く何ともないので不思議そうにしておられました。

シートベルトの重要性は日頃から聞いて、私は運転の時必ず着用しているのですが、主人の運転の時は助手席にいてももつたに着用しなかっただけに、フツと来た印象に従って本当によかつたと思えました。伊藤さんの言葉ではありませんが、今ごろは金鼠に（ならいですが）転生してはいたかもれませんよと、笑い話になりました。

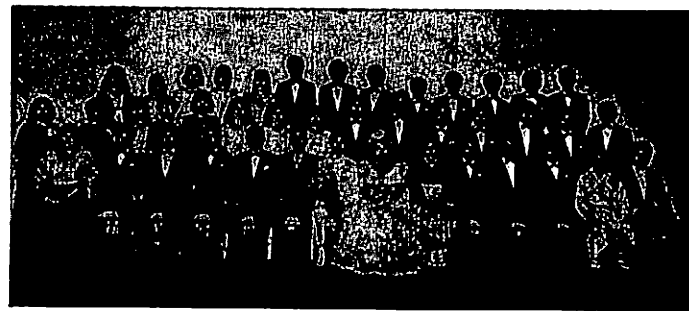
この事故のことですが、主人が今の車に対する愛着が少なく、早く買い替えたいという気持ちがあつたこ

創立25周年記念 UFO写真展

日時 八月一日より七日まで。毎日午前十時より午後七時半まで。
会場 静岡駅ビル「パルシェ」五階 展示会場。
主催 日本GAP静岡支部
後援 日本GAP
目的 現代の若い人たちに宇宙空間特に太陽系の地球以外の惑星群に偉大な文明が存在することを認識して頂くとともに、宇宙的なフィーリングを持つて下さることを期待して、この写真展を開催することになりました。GAP会員のみならず、一般の人々にも観覧して頂けるように配慮しましたので動員して下さい。

とや、当日やその前の想念とも関係があるように思いました。その意味でも物や人が放つ日常的想念の型とは全く違った宇宙的な線に沿った高次の波動をより強力に発することが必要であることを強く感じています。テレビ受信のための受容性と想念放射の積極性ととのバランスをとるために、まだまだレッスンがあるなあと感じています。

だれにもわかる生命の科学
一九八二年版
内容 一九八二年東京月例会における久保田会長の「生命の科学」講義B6判・ケース付。第一部/売り切れ。第二部/第一部/在庫有り。各価五〇〇円。送料/一冊二〇〇円。三冊三〇〇円。申込先/〒三三〇千原船橋市松が丘千三三三ルミハウスA2。安藤澄雄 撮影/東京二二五



徳東京月例会司会者（披露宴司会、久保田会長、野口静岡支部代表（嫁約）、新婦の右より野口夫人、伊藤松山支部代表。前列左端は新婦の双子姉の朋子さん。

だれにもわかる生命の科学
一九八二年版
内容 一九八二年東京月例会における久保田会長の「生命の科学」講義B6判・ケース付。第一部/売り切れ。第二部/第一部/在庫有り。各価五〇〇円。送料/一冊二〇〇円。三冊三〇〇円。申込先/〒三三〇千原船橋市松が丘千三三三ルミハウスA2。安藤澄雄 撮影/東京二二五

静岡支部大会

● 四月二十八日(日)

● 富士市 ホテル「サンライズフジ」

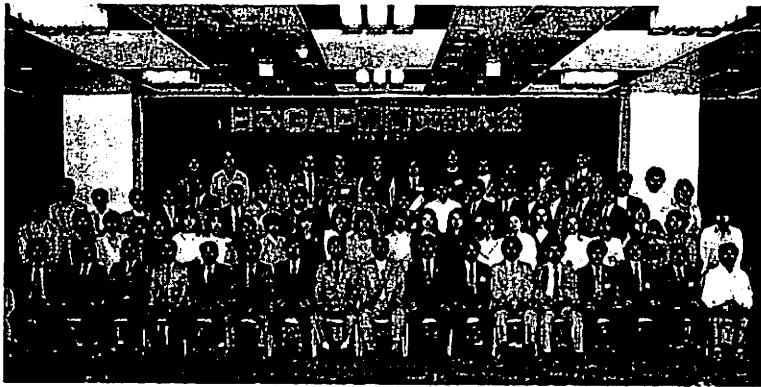
● 出席者 七十五名

雄大な富士山のみもと富士市で今年の静岡支部大会は久保田先生をお迎えて開催されました。北は北海道、南は九州からと熱心な会員の方々が多数参加して下さり、会場は始まる前から熱気に満ちていました。

高梨和明氏の司会で始まった大会は、久保田先生の大講演「宇宙哲学の生かし方」で最高潮に達した。スペース・ピープルからいただいたアドバイス「祝福の想念を放つ人間になりましょう」。この言葉は私達の心をふるい起こさせ、勇気と希望を与えてくれた。そしてGAP活動への意欲がより高まったのでした。夕食会の「久保田先生四半世紀の活躍」と題するスライド映写では、GAP活動二十五年間の歩みを拝見し、先生の偉大さをあらためて感じました。二十五年間本当にありがとうございました。

大会翌日の富士山周遊の観光では天気にも恵まれ雄大な富士山が一日中姿を見せていてくれた。田貫湖、朝霧高原、白糸の滝と自然の中でゆったりと楽しく過ごすことが出来ました。富士山周遊は、以前からUFOの目撃の多い場所として有名ですが、今回の大会でもまたその事が証明されました。特に松山支部代表の伊藤達夫氏は、三日間で十数回という多

くの目撃をされている。そのほかに、石田氏、佐藤氏、佐々木氏、赤池氏なども目撃している。これらの多くの出現は何を意味するのでしょうか。それは、自分の仕事をなげうって二十五年間GAP活動で頑張ってこられた久保田先生への祝福と激励であったに違いない。
日本GAP設立二十五周年を記念して行われた今回の大会は、久保田先生を始め会員の方々の絶大な協力により大成功をおさめた。また全国各地から遠路はるばる参加して下さった方々にも心より感謝申し上げます。
(野口敏治)



茨城支部大会

● 五月五日(日)

● 土浦市 サンレイク土浦

● 出席者 四十七名

さわやかな五月の風が霞が浦を渡り会場を吹きぬける。ちよつと暑かったが、これは会場を埋めつくした会員の熱気のせいと思う。とにかく予想もしなかった多数のご出席に、茨城支部一同非常に感謝感激しました。

大会は大沼氏の力強い司会で始まりました。久保田先生のご講演は「アダムスキー問題と世界の未来」で、我々が最も関心のある問題でした。いつもながらの力強いご講演、また宇宙的深遠な内容、そして時々発せられる先生独特のユーモアにより、リラククスの中に貴重なお話が展開し、時間オーバーも忘れる程の宇宙的フィージングに包まれました。その概要は、①静岡支部大会での富士山の近くに出ている月は実はUFOだったとの衝撃的なお話。②自分をあらゆる物を祝福する想念体とすること。③これからの世界の変動とGAPの役割等、とにかく具体的なかつ詳細にお話し頂き、出席者全員、久保田先生の高貴な波動に共振し、高揚し、素晴らしい大会となりました。

翌日は絶好の万博日和(曇って雨が少しパラッキ、涼しい風が吹く状態。待つためにはこれが最高)となり、入場者も少なく、富士通初め六パビリオンを見学し、素晴らしい一日となりました。

最後に本大会に朝早くから来て手伝って頂きました篠、石川、石田、伊藤、染谷の各氏、茨城支部の皆様、そして大会に出席された皆様、万博協会の齊藤氏、そして日本GAP会長久保田八郎先生、また祝電や祝福の想念を頂きました全国会員の皆様、陰からご援助頂きましたスペース・ピープルの皆様に大感謝申し上げます。ありがとうございました。
(消水勝一)



新潟県支部大会

●五月二十六日(日) ●新潟厚生年金会館(新潟市) ●出席者 十四名

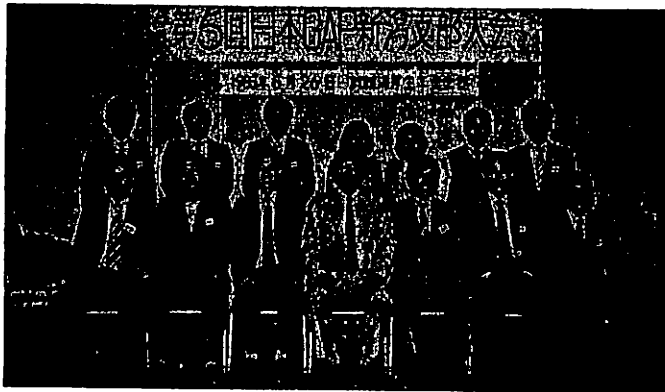
今回の大会も支部会員の一致した協力により、充実した内容で大成功のうちに終了した。久保田先生の講演は宇宙論と密接に関連した生き方について説いたもので、一時間という限られた時間の中できわめて力強く密度の濃い全力投球の講演が行われました。

その内容は、①宇宙全体余すところなく満ちている「祝福の波動」を感じとつて、そのフィリングを自分自身に表現することが大切。②そのための自己トレーニングの重要性を強調。③アダムスキー氏の説く「万物一体」の思想は、近年ニューサイエンスと呼ばれる科学界の新しい動きによって裏づけられつつあること等が中心となる内容である。続く質疑応答や夕食会でも活発に質問が出され有意義なひと時をすごした。

又、当日の午前中は希望者による観光として県立自然科学館へでかけた。ここは科学と技術の様々な分野をわかりやすく効果的に示した展示物で満ちており、宇宙的フィリングの感じられる場所です。ここの天文台では制御パネルのボタン操作により、60センチ反射望遠鏡が納められた天体観測設備の稼働する様子が実演されて参加者一同大いに宇宙的フィリングを楽しんだみたいです。皆様に

感謝します。

(星 富治夫)



旭川市支部大会

●六月二十三日(日) ●旭川ターミナルホテル(旭川市) ●出席者 二十六名

五日目を迎えた合同支部大会は、久保田先生と多数の会員の皆様の出席を頂き、盛況裏に開催されました。

はじめに函館市の会員・坂野美津子さんの講演が行われ、坂野さんはその中で、機関紙や地方支部大会での交流を通して会員の皆さんが真剣に実践されていることを深く感じ、自分も何か「知らせる活動」をやらなければと考え、勤務先小学校で「UFOクラブ」の設立を思い立つたこと、この活動を通して、子供たちはUFOに強い関心を持っているが、その知識はゆがめられたものが多いこと、更に自分にとつても大変良い勉強となり、今後もUFOに関する正しい知識を伝えていく決心であることなどを話されました。

次に久保田先生が「UFO問題と宇宙哲学実践法」と題してご講演になり、①アダムスキー氏の体験を未だに否定する人が少なからず居るが、NASAの著名な科学者が十年あまり前に出版した著書の中で、アダムスキー氏を激賞していること。②NASAから入手した月面写真の中に犬が写っているのを日本の研究者が発見していること。③宇宙的な向上のためには、何といつても万物との一体感を深めることが重要で、そのためには自

分の周囲のあらゆるものに対して祝福の想念を放つように努力することが大事であることなどについて語られました。大会後の夕食会では最後に男女に別れて合唱をするなど、雰囲気は最高に盛り上がり、大変楽しい交流の場となりました。

翌日は、前日の雨が嘘のように晴れ上がり、十五名で十勝岳方面へ観光に出かけ、雄大な北海道の自然を十分に満喫して頂いたことと思います。

忙しい中、出席頂いた久保田先生はじめ、会員の皆様からお礼申し上げます。ご協力頂いた両支部の皆様にも感謝いたします。(阿部 堯)



〈予告〉60年度地方支部大会—その3—

〔11月24日(日)に名古屋支部大会を開催の予定。次号詳報〕

| | 60年度 大阪支部大会 | 第6回 山形・仙台合同支部大会 | 第3回 群馬支部大会 | 第3回 福岡支部大会 |
|-------|--|---|--|--|
| 日時 | 10月6日(日) 午後1:00→5:00 | 10月20日(日) 午後2:00→6:00 | 11月3日(2日連休の初日) 午後1:00→5:00 | 11月17日(第3日曜日) 午後1:00→5:00 |
| 会場と交通 | 「須磨観光ハウス」1F会議室 ☎ 078-731-3751 神戸市須磨区西須磨字鉄揚(てつかい)7番地 東京方面からは新幹線新大阪駅下車、国鉄下り快速電車に乗り換えて須磨駅へ。駅前よりタクシー利用(基本料金内)。新大阪駅より所要時間約50分。広島方面からは山陽新幹線西明石駅下車、上り電車で須磨駅へ。西明石駅より所要時間約20分。 | 「置園(おいたま)総合文化センター」2F203研修室 ☎ 0238-21-6111 山形県米沢市金池3-1-14 奥羽本線米沢駅下車徒歩20分、タクシー5分。東京方面からは上野駅より東北新幹線で福島下車、福島より奥羽本線特急に乗り換えて米沢まで40分。上野・米沢間は2時間30分。 | 「太田グリーンホテル」2F会議室 ☎ 0276-25-8511 東武線太田駅下車、徒歩15分。タクシー約500円。東京浅草と太田間は急行ロマンスカーにて1時間45分。 | 「福岡商工会議所」5F501号会議室 ☎ 092-441-1111 福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号 博多駅(博多口)より北へ徒歩7分。博多区役所のととなり。 |
| 会費 | ¥2000(希望者のみ全員記念写真代¥600を別納。グランドキャビネ判、送料共) | 左に同じ | 左に同じ | 左に同じ |
| プログラム | 1:00 支部代表挨拶 平塚和義 1:10 講演「アダムスキー問題の意義」久保田八郎先生 2:25 休憩、記念撮影 3:00 全員自己紹介、質疑 5:00 閉会 | 司会 柴田文子 2:00 支部代表挨拶 清水正、笠原弘可 2:20 講演「アダムスキー哲学の生かし方」久保田八郎先生 3:30 休憩、記念撮影 4:30 全員自己紹介、質疑 6:00 閉会 | 1:00 支部代表挨拶 久保寺信一 1:10 講演「GAP活動の意義」久保田八郎先生 2:15 休憩、記念撮影 2:40 全員自己紹介、質疑 5:00 閉会 | 1:00 支部代表挨拶 喜多正直 1:10 会員講演(講演者未定) 1:40 講演「コスミック・マンになるためには」久保田八郎先生 3:00 休憩、記念撮影 3:30 自己紹介、質疑 5:00 閉会 |
| 夕食会 | 大会終了後6:00から8:00まで大会会場と同じハウスで希望者による夕食会を開催(着座形式) 会費 ¥5000 | 大会終了後6:30から8:30まで会場近くの「ニューグランド北陽」で開催。(置園総合文化センターの南向かい) 会費 ¥5000 | 大会終了後6:00から8:00まで大会会場と同じホテル内2Fにて希望者による夕食会を開催。 会費 ¥5000 | 大会終了後6:00から8:00まで「ライオンズホテル」にて希望者による夕食会(立食パーティー)を開催。 会費 ¥5000 |
| 宿舎 | 「須磨観光ハウス」をお世話します。 和室1泊¥5000、朝食付¥6000(大会会場と同じ場所) | 「ビジネスホテル金地」をお世話します。夕食会場の東隣。 1泊お1人様¥3500(シングル・ツイン共) 収容人員は32名まで。 | 「太田グリーンホテル」をお世話します。 シングル ¥4800(税サ込) ツイン ¥8400() | 「ライオンズホテル」をお世話します。☎ 092-451-7711 シングル ¥4800 ツイン ¥8500 大会会場より徒歩4分。 |
| 申込 | 夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで9月末までに下記へ。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町3丁目16-8 平塚和義 ☎ 06-436-3478 | 夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで10月19日までに下記へ。 〒992 山形県米沢市中田町9-1-2、県営中田アパート141号 清水正 ☎ 0238-37-5635 | 夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで10月末までに下記へ。 〒373 群馬県太田市新井町744-1、久保寺信一 ☎ 0276-25-5958 | 夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで11月15日までに下記へ。 〒814 福岡市城南区金山団地40-204、喜多正直 ☎ 092-863-5438 |
| 観光 | 大会翌日の7日は希望者で近くの鉢伏山へロープウェイで行き、瀬戸内の雄大な景色を見た後、須磨海浜公園内の須磨水族館を見学。その後神戸港に浮かぶ世界最大の人工島ポートアイランド内にある青少年科学館でプラネタリウムと科学展示品等を見学し、午後5時頃、国鉄神戸駅で解散。 | 大会翌日は山形交通観光バスで上杉の城下町米沢市内観光の予定。好天ならば春妻山、天元台まで足をのばしてロープウェイ登山を行う。朝10:00出発、午後3:30米沢駅着、解散。 | 大会翌日は榛名富士として有名な上毛3山の一つ榛名山、榛名湖を小型バスで周遊。午後5:00に太田駅着、解散。 | 大会翌日は福岡市内観光。 |
| 備考 | 10月の月例会は大会のため中止。 | 10月は大会のため月例会を中止。 | 11月は大会のため月例会を中止。 | 11月は月例会を中止。 |



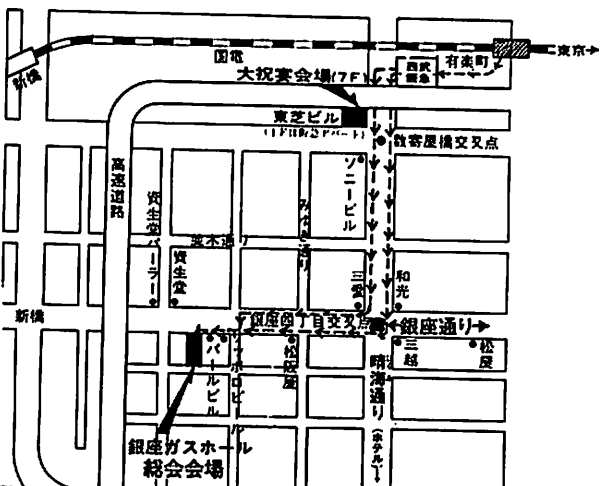
❀❀ 創立25周年・機関誌90号発行記念 ❀❀

60年度 日本GAP総会

（注）日本GAPの活動は、東京本部（UFG）が中心となり、各都道府県支部が協力して行われます。また、各支部は、本部の活動に積極的に参加し、その発展に貢献していただきます。また、各支部は、本部の活動に積極的に参加し、その発展に貢献していただきます。

日本GAP東京本部役員代表 篠 芳史

| | 総 会 | 大 祝 宴 会 | 東 京 都 内 観 光 |
|-----------|--|---|---|
| 日 時 | 9月22日（日・2日連休の初日） 午後 1:00 - 5:00 | 9月22日 午後 6:00 - 8:30 | 9月23日（祭日） 午前 9:00 - 午後 5:00 |
| 会 場 | 東京都中央区銀座7丁目9番15号 「銀座ガスホール」7Fホール ☎ (03) 573-1871 国電有楽町駅の銀座側下車、駅を背にして右方に歩き、西武デパートと阪急デパートの間の筋抜けを通り抜けて大通りを左へ行くと銀座4丁目の交差点に出るので、そこを右折して銀座中央通りを歩き、松坂屋デパートの前を通りすぎて約100mの所に銀座ガスホールがある。入口より奥へ行き、エレベーターで7Fへ行く。徒歩8分 | 中央区有楽町数寄屋（すきや）橋交差点角の東芝ビル7F（1Fは限外）レストラン「四季」 ☎ (03) 575-3311 有楽町・数寄屋橋交差点角まで行き、ソニービルの向かい側の東芝ビルの右手にまわるとエレベーターがあるので、7Fへ行く。 大祝宴会は立食形式。 ※総会当日と翌日は銀座通りは歩行者天国のため自動車は通行止め | 団体用大型貸切りバスで「東京ホテル浦島」を出発。 定員 45名。 雨天決行。 （列車・飛行機等の都合により早目に引きあげる方には便宜を図ります） |
| 会 費 | ¥3000（会場受付でご納入下さい。全員記念写真希望者は写真代¥1000、送料200円、計1200円を別途納入して下さい。六つ切、カラー） | ¥6000（祝宴会会場受付でご納入下さい） | ¥2700（この会費のみ事前にご納入下さい。詳細は申込欄を参照） |
| ブ ロ グ ラ ム | 1:00 司会者挨拶 篠 芳史 1:05 講演「宇宙船（円盤・母船）の推進原理の研究発表」（スライド多数使用） ↓ 2:30 遠藤昭則 2:40 講演「世界のUFO問題とアダムスキー出現の意義」（スライド多数使用） ↓ 4:00 日本GAP会長 久保田八郎 4:10 出席者全員記念撮影 ↓ 4:30 4:40 日本GAP創立25周年と機関誌90号発行のお祝い ↓ 5:20 本部役員一同 野口氏祝辞、会長挨拶、アダムスキーの声、ロドファー夫人撮影円盤映画映写、花束贈呈、クス玉割り、役員一同挨拶 | 6:00 司会者挨拶 篠 芳史 6:05 会長挨拶 久保田八郎 6:10 乾杯 野口敏治 ↓ 祝宴・余興多数 8:30 振引あり。 ※終了後、有楽町駅そごうデパート近くの「有楽ビル」地下1F「チボリ苑」にて2次会開催の予定。 11:00まで。希望者は東芝ビル1Fエレベーター前ロビーに集合して下さい。 | 9:00 にホテルを出発→東京駅八重洲口、皇居前広場二重橋→銀座4丁目→東京タワー→六本木警署街→新宿超高層ビル、その他を周遊。このツアーは重要観光地を重点的に見学し、その都度バスを降りていったん自由行動にするのが特長。なお会費には昼食代は含まれていません。 昼食代は¥1000程度。 |
| 申 込 | <p>9月22日夜の大祝宴会、23日の都内観光、宿舎の希望者は次の要領でお申込下さい。</p> <p>(1)大祝宴会＝ハガキに「大祝宴会出席希望」と記して下記申込先へ9月20日までに（必着）お申込下さい。定員100名</p> <p>(2)都内観光＝これのみは会費¥2700を添えて現金書留で遅くとも9月10日までに下記へお申込下さい。定員45名。</p> <p>(3)宿 舎＝「東京ホテル浦島」をお世話します。中央区晴海2-5-23、☎ 03-533-5331 シングル¥5900 ツイン¥11000、希望者はハガキに① 宿泊日 ② シングル、ツインの別 ③ 住所・氏名・電話番号を明記の上、下記へ遅くとも9月15日までにお申込下さい。</p> <p>■申込先＝上記(1)～(3)の申込はすべて下記へ、〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F、ワールドセブントラベル社、田中 正 ☎ (03) 499-2461 夜間(0462)63-0615(自宅)</p> | | |



エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅

■日本GAPは国際的視野を開くために毎年海外研修旅行を実施して多大の成果をあげてまいりましたが、昭和60年度は87号に予告した「イギリス・フランス宇宙考古学の旅」を事情により変更して、標題のとおり、エジプトとイスラエル訪問を行うことにしました。

■ご承知のとおりエジプトは5000年昔からの雄大な巨石文化の跡をとどめており、謎に満ちた遺跡の国で、アトランティス大陸文化の名残りと思われるギザの3大ピラミッドをはじめ、驚異的な石造文明の建築物の充満した大地です。またイスラエルは2000年前に地上最高の栄光と悲運に生きた金星人イエスの土地であり、特にエルサレムにはその最期を物語る遺跡がていねいに保存されています。日本GAP会員が一生に一度は見るべき地上最大最高の遺跡として、この2カ国にまさるものはありません。万障お繰り合わせの上、多数ご参加下さい。大体のコースは次のとおりです。

■8月12日(月)午後3時成田空港北ウィングに集合、6時発のエジプト航空機で出発。13日早朝エジプトのカイロ着。同日は国立博物館、ギザの3大ピラミッドやサッカラの階段状ピラミッドなどを見学。カイロ泊後14日午前専用バスにて出発、雄大なシナイ半島を横断、夕刻イスラエルの首都エルサレム着。同夜泊後、15日は専用バスにてエルサレム市内見学。オリーブ山展望台、エレオナ教会、昇天教会、ゲッセマネ庭園、万国国民教会、イスラエル博物館その他を視察。翌16日も市内見学を続行。ベツレヘムのイエス生誕の場所、十字架をかついで歩いたピア・ドロローサ(歎きの道)、ゴルゴタの丘跡の聖墳墓教会、大祭司カヤバの官邸跡の鶏鳴教会、イエスが歩いた石段、シオン山の各遺跡等を周遊。17日は専用バスでクムラン洞窟、マツァダの遺跡、死海での海水浴、1万年前の都市エリコの遺跡、その他を見てティベリア泊。18日朝ティベリア出発、ガリラヤ湖畔の山上の垂訓教会、ナザレの町、聖告知教会、ヤッフォの町等を経て夕方テルアビブより空路カイロへ飛び、夜カイロ泊。19日は終日自由行動。20日朝カイロ発空路アブシンベルへ行き、大神殿と小神殿を見学後空路アスワンへ飛び、アスワンハイダムや古代の石切り場等を見学、夕方ルクソール着後同地泊。21日は朝から専用バスにてメンノンの巨像、ハトシェプト女王葬祭殿、王家の谷、カルナック神殿、ルクソール神殿などの壮大な巨石文化遺跡を視察後、夜は快適な西ドイツ製寝台列車で北上して22日朝カイロ着。終日自由行動。同夜カイロ泊、23日午前カイロ発、日本へ向かい、24日昼12:15成田着という13日間の大旅行です。

■以上を要約しますと最初にエジプト入りして1日をすごし、次にイスラエルへ移動して予定の見学コースを完了し、再度エジプトへ行きます。両国とも数度日本GAPの海外研修旅行で訪問した経験がありますが、今回はエジプトのアブシンベルとアスワンが加えてあり、しかもカイロで2日の自由行動があるため市街散策や再度ギザのピラミッド見学等が自由にできます。

■両国を数度訪問した経験のあるベテラン添乗員の田中正(ワールドセブントラベル社幹部・日本GAP東京本部役員)と、海外団体旅行引率の経験豊富な日本GAP会長・久保田八郎によるGAP独特の家族的雰囲気にも満ちた素晴らしい旅を満喫して下さい。現地では優秀な日本人ガイドが案内します。(GAP会員でない方も参加できます)



● 期間 昭和60年8月12~24日(13日間)
(前号発表の日程は変更されました)

● 費用 ¥498,000 (60年度は航空運賃・ホテル代等で若干の変動があるかもしれません。24回払いローン利用可能。詳細は案内書をご参照下さい)

● 案内書 下記へハガキでお申し込み下さい。

ワールドセブントラベル株式会社 田中正(宛)

〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイストビル2F ☎(03)499-2461 / 夜間と休祭日は(0462)63-0615

今年度旅行参加申込者氏名

| 氏名 | 住所 | 職業 | 氏名 | 住所 | 職業 |
|-------|------|-------|-------|-----|-------|
| 大畑 忠 | 千葉県 | 国家公務員 | 河辺 宏幸 | 愛知県 | 会社員 |
| 今西 行雄 | 神戸市 | 会社員 | 土居マユミ | 札幌市 | 看護婦 |
| 今西 正子 | 〃 | 小学校教諭 | 片山ゆう子 | 熊本市 | なし |
| 山内裕理子 | 北海道 | なし | 田辺 健司 | 大阪市 | 研 工 |
| 大野 仁 | 長野県 | 会社員 | 伊東佐和子 | 千葉県 | デザイナー |
| 仲宗根直子 | 沖縄県 | なし | 大沼 潤一 | 茨城県 | 会社員 |
| 高原登茂子 | 名古屋市 | 事務 | 岡部 智成 | 東京 | 〃 |
| 〃 大記 | 〃 | 小 4 | 松本 隆司 | 〃 | 〃 |
| 〃 靖鶴 | 〃 | 小 2 | 佐々木八郎 | 〃 | 小学校教諭 |
| 堀江 健一 | 千葉県 | 会社員 | 斎藤 純一 | 千葉県 | 会社員 |

第2次 旅行説明会

上記旅行の第2回目の説明会を下記の要領で開催します。参加申込者と考慮中の方もぜひご出席下さい。7月末までなら申込は間に合います。

と き 7月28日(日)午後13:00~17:00

と ころ トラベラー商会7F説明会場
東京都中央区銀座2丁目2番19号
☎(03)563-5461~2

国電有楽町駅下車、銀座側に出て、交通会館を前にして左側面の道路をまっすぐ行き、フードセンターを通り抜けた外通り向かい側。デパート「プラザ」の並び約100m左。(銀座の中央通りではありません) トラベラー商会入口のエレベーターで7Fへ。(地図は本誌89号38頁に掲載)

会 費 無料

携行品 パスポート、筆記具

夕食会 説明会終了後、フードセンターの「チボリ苑」で夕食会を開催。

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全7巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化を導いた金星の火柱とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、究極的な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生を教える最高の指針、UFOと宇宙哲学の研究者必携の名著です。

1. 宇宙からの訪問者
338頁 ¥2500
2. UFO問題の真相
262頁 ¥2500
3. UFOとアダムスキー
350頁 ¥2500
4. 宇宙哲学
148頁 ¥1300
5. テレパシー開発法
190頁 ¥1800
6. 生命の科学
205頁 ¥1800
7. アダムスキー論説集
370頁 ¥2500

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。1952年11月20日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第1部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第2部とした驚異的な奇物。本全集の中心をなす最重要なもの。

第1巻の補足的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの卑劣な妨害が究明に描写されている。

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第1部「死と空間を超えて」が7巻。またアダムスキーが「存命中」に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたばう大な情報と書簡類を収録して第2部とした。

人間のセンス・マインド（肉体の心）と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理論整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の4官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシクな印象を受受する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話をを行う技術を述べた、読者の多く存在しないガイドブック。

アダムスキーが「他界する数年前に出したScience of Life」と題する12分間の講義を和訳して一巻にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な大金字塔で、真実のテレパシーと心靈的な霊界通信の相違を明確にし、心靈現象への接近を警告する画期的な書。

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演が7巻。第2部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を収録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

※送料は各巻¥250。但し発行所宛直接注文の場合に限り、下記のように定価・送料をサービス。

- ☆1冊注文＝送料は出版社負担。書籍代のみご送金下さい。
- ☆第1巻より第3巻まで一括注文＝特別セット価格 ¥7000(送料共)
- ☆第4巻より第7巻まで一括注文＝特別セット価格 ¥6500(送料共)
- ☆第1巻より第7巻まで一括注文＝全巻セット価格 ¥13000(送料共)

郵便振替または現金書留でご注文下さい。

文久書林 〒162 東京都新宿区榎町33 Tel. 03(267)6920 振替東京4-2521



UFO Contact: N. J. 1952年

■去る5月に発刊された英文版は早くも国際的に高い評価を得つつあり、日本GAPの活動状況と日本国内における主要なUFO出現事件の海外向け紹介に重要な役割を果たすに至った。

■日本GAP・久保田八郎会長が書きおろした格調高い英文記事「George Adamski the Cosmic Man」,「Adamski-Type Flying Saucer Comes Down In Takamatsu, Japan!」にダニエル・ロス氏の「UFOs And American Indians」を加え、最後に日本GAPの活動内容を伝えた本格的機関誌。

■会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを操作してオフセット版下を作成。デザイン、レイアウトから1字1句に至るまで会長が熱意をこめて作った、この記念すべき創刊号をぜひ机の上に。英語学習用にも好適。本文中不明の点は返信用切手同封の上、会長宛質問されたい(ただし全訳文の請求には応じかねます)。

Ｂ5判 12頁 最上質アート紙使用 ¥300 送料¥170 (5冊まで¥240、10冊まで¥350)注文は必ず郵便振替で下記へ(現金書留、切手代用は不可)。

日本GAP 振替・東京4-35912 ☎(03)651-0958

日本GAP全国月例研究会案内

| 支部名 | 日 時 | 会 場 | 会 費 | 携 行 品・行 事 |
|-------|--|--|-------|--|
| 東京本部 | 毎月第2土曜日 午後2:00→6:30 ※8月のみは第1土曜日(3日)に中央区立中央会館に変更。9月の月例会は中止。詳細は編纂後記に。 | 上野公園内「東京文化会館」4階会議室 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先=日本GAP ☎03-651-0958 | ¥ 500 | 2:00→3:00 会員による体験講演。 3:00→4:30 久保田会長の「テレバシー開発法」講義と近況報告、テレバシー練習、休憩。 4:30→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。 |
| 大阪支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※10月の月例会は大会のため中止。 | 大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎388-7351 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和毅 ☎06-436-3478 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」(文芸春秋)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。 |
| 新潟支部 | 毎月第3日曜日 午後1:30→4:00 | 長岡駅前「パークホテル」2F、ローズルーム ☎0258-36-2331 連絡先=星富治夫 ☎02579-2-5562 足立直宏 ☎0252-62-0968 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」持参。東京本部例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習、座談会。 |
| 福岡支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※11月は大会のため月例会は中止。 | 福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F 国際会議控室 連絡先=喜多正直 ☎092-863-5438 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。久保田会長の東京例会における講義録音テープ公開座談と研究発表。テレバシー練習。 |
| 名古屋支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 | 名古屋市中区古沢町7-1「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山橋駅」下車。徒歩5分。 連絡先=林 国彦 ☎0586-45-6468 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表・テレバシー練習・座談会。 |
| 仙台支部 | 毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※10月の月例会は大会のため中止。 | 仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725 ※7月と9月は月例会は中止。8月は開催。 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。久保田会長の講義録音テープ公開。テレバシー練習座談会。 |
| 山形支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※10月の月例会は大会のため中止。 | 山形市小白川町「社会福祉センター」山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。☎0236-42-5181 連絡先=清水 正 ☎0238-37-5635 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表、座談会。 |
| 札幌支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※8月のみは 19:00→16:00 | 中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-822-8260 | ¥ 500 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。久保田会長の講演録音テープを公開、テレバシー練習・座談会。 |
| 静岡支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 | 静岡市駿府町「静岡県婦人会館」会議室 ☎0542-54-5221 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表。 |
| 旭川支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 | 旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室 ☎0166-26-1304 連絡先=阿部 亮 ☎01658-2-1585 | ¥ 500 | 東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。研究発表、アダムスキー著「テレバシー開発法」「生命の科学」を持参。質疑応答、テレバシー練習、研究発表。 |
| 松山支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※奇数月は広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 ※偶数月は松山市民会館会議室。 | 松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060 ※9月は東京総会のため月例会は中止。 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。質疑応答・座談会。 |
| 群馬支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 ※11月は大会のため月例会は中止。 | 群馬県太田市「社会教育総合センター」3F 連絡先=久保守信一 店 ☎0276-25-5958 自宅☎0276-45-3544 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、座談会。 |
| 青森支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 | 青森市堤町1丁目4-1「青森市文化会館」会議室 ☎0177-73-7300 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表・座談会。 |
| 沖縄支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→6:00 | 〒901-22 宜野湾市野嶽1547 マキシアバート 新里方 連絡先=新里義雄 ☎09889-3-3695 | ¥ 500 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。久保田先生による講演録音解説テープ公開。質疑応答。記念観察とテレバシーの研究報告。自己紹介座談会等。 |
| 秋田支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 | 秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831 | ¥ 200 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習。座談会。 |
| 神奈川支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 | 神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」第1研修室 ☎044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先=大崎孝典 ☎0492-65-0389 | ¥ 500 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表・座談会等。 |
| 茨城支部 | 毎月第3日曜日 午後2:00→5:00 | 水戸市南香1-2「水戸市中央公民館」4F小会議室 ☎0292-24-6600 水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習、座談会、研究発表等。 |
| 長野支部 | 毎月第4日曜日 午後1:30→5:00 ※9月は総会のため中止。 10月は第3日曜日に開催。 | 塩尻市大門7番町「塩尻市総合文化センター」第1会議室。☎0263-54-1253 国鉄新塩尻駅下車。徒歩10分。 連絡先=大野 仁 ☎0265-78-8504 | ¥ 300 | テキストとして「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田先生の講演録音テープ公開。テレバシー練習、座談会、研究発表等。 |
| 紀南会 | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※9月のみは第5日曜日に変更。 | 和歌山県新宮市新宮6882-1「新宮市福祉センター」1F研修室 ☎0735-21-2760 国鉄新宮駅下車。徒歩5分。連絡先=松口幸之助 ☎0735-22-3641 夜☎0735-34-0605(峠、山中) | ¥ 300 | テキストとして「宇宙からの訪問者」「テレバシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田先生の講演録音テープ公開。テレバシー練習、質疑応答、座談会。 |

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

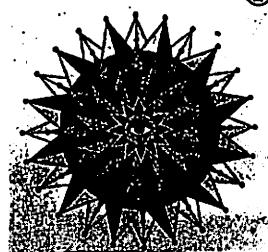
No.87 主要記事「月と地球は空洞のコアをもつ天体か」ウィリアム・ブライアン/「宇宙から来る訪問者たちは地球人を指導しようとする」ジェニー・アベ/「絶対に真実であったアダムスキーの体験」遠藤昭則/「丸窓の並んだ母船が出現！」後藤澄子/「二十一世紀の地球」松原真弓/「異星人イエスの足跡を訪ねて」久保田八郎

No.88 主要記事「驚異の高松市円盤降下事件」伊藤達夫/「人工衛星による写真と地球上の異様な発見物」ウィリアム・ブライアン/「米政府はUFO問題の真相を公開せよ」ダニエル・ロス/「太田市上空に頻出するUFO」久保寺信一/「不思議な予知夢の実現」内藤重雄/「テレバシー開発基礎トレーニング」久保田八郎

No.89 主要記事「ハケ岳に出現した円盤」秋山京子/「富士山麓にUFO頻出」高梨和明/「金星文字解読研究」遠藤昭則/「ノアの箱舟とアブラハム」久保田八郎/「アステロイド帯と月のクレーター」ウィリアム・ブライアン

各 ¥700
バックナンバーに限り送料は不要

「テレバシー開発」解説講義録音テープ
昭和160年1月より1年間にわたって東京月例研究会で毎月1〜2章ずつ日本GAP会長・久保田八郎先生が解説される録音テープです。アダムスキーの宇宙哲学の中心をなすテレバシー開発は、宇宙人間になるための重要な条件。平易な解説と深遠な内容をぜひお聴き下さい。各支部月例会用の必須のテープ
テープ1本(90分) ¥1000 千200
※このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××川分と記して必ず下記へご注文下さい(第1章より在庫)。
〒430 静岡県浜松市寺島町221、小島園弘
TEL. 0534-52-8502 / 振替名古屋7-51065



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ガイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真)
②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらゆる、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥600千120 ②¥300千60一括注文の場合千120

テレバシー練習用
本誌とじ込み用
③ゼナーカード
バインダー
濃紺地に金色の誌名背文字入り豪華版。1個に本誌12冊がとじ込めるので保存用に最適。1個 ¥600 郵便小包送料は重量と距離により多額類の差がありますので、希望者はハガキで個数を明記の上ご注文下さい。代金あつと払いでお送りします。

日本GAP

編集後記

●「朝霧高原の不思議な月」は本当に不思議な話で、多数の目撃者もいますから出現していたことは間違いありません。しかもこの事件には記事に書ききれない出来事が色々とあったようです。これと類似の出来事が旭川にも発生しており、石川晴道(公)氏が「旭川にも月擬装UFO出現」と題する興味深い報告をよせられました。
●「尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船」は十一年前の旧聞に属するほうですが、内容は今も新鮮で驚異的です。ご存知ない方々のために掲載しました。
●「人間の想念に応答する植物」も興味深く、「イエスと転生は測り知れぬ深遠な宇宙のカルマの問題を提示しています。
●「ムーンゲート」は大好評裡に本号で完結しました。長くご愛読頂き感謝します。
●「アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法」は、創刊90号記念として書きおろしたのですが、各地支部大会での講演の骨子も組み込まれていました。書店で初めて本誌を発見した人のための入門的解説ですが、宇宙哲学実践法はベテラン会員の方々にも有益ではないかと自負します。
●英文版UFOコンを好評発行中です。39頁の広告をご参照の上、ふるってご注文下さい。
●八月の「エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅」は38頁の中間報告のように二十名に達しています。七月末までの申込なら間に合いますので、至急ワールドセブントラベル社の田中氏宛まで電話でご連絡下さい。
●九月二十二日の今年度総会も二ヵ月後に迫りました。今年は銀座ガスホールで趣向を変えて盛大に開催します。参加希望者は37頁の

会員募集
日本GAPの発展に貢献する
UFO contactee 90号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色町5-11
TEL (03) 6511-0958
振替東京41-355912

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
UFO contactee 90号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色町5-11
TEL (03) 6511-0958
振替東京41-355912
一九八五年七月二十日発行
定価七〇〇円・送料200円

111200

UFO contactee 90号

昭和60年7月20日発行
発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色町第1-511

定価700円・送料200円